

寶曆十四甲申

歲旦

風雲齋

平伏也今東君如御日通也 風狀

一宮物如序也 象達

茲如自川也 象飛多 羅江

寶曆十四

其二

雲隅翁

此春之又為之於勤如春 羅江

實乃救之乃之破魔弓 風狀

風之身之抑之之之之之 象達

其二

蛭牙齋

大之之好也也老乃名也也也 象達

似之之之之之也松子也梅 羅江

紙之也翠簾也也內外蝶也也也 象狀

華翁

湯屋山より海へ中家大なる。羅江

秋をたふさく積や露の年々家連

全

善六もあちやあちの信按へ風狀

歌仙

峰も東は山茶花清くあは者 蘭中

張る小妻乃日何し進ふ 箱 風狀

行列の笠たふ福く吹晴る 金下

なくは女善清好む友連 達三

比浦ハ口きくまゝ入る自如 金華

福刈の詠作を笑ふ至る 李徑

切株能作山もあしつ八原し 李徑
 大勢さう類 神と 廻 國 金兼
 羽子薫り位も者多様切つ次 雪下
 手如部と取つ下座安能砂 以狀
 さう何とと獲えを客囃ひりあ 葉中
 見言しらぬ能 我もむしハ 達之
 夏如雲馬借りかとの石 琴 李徑
 一時 子老悦つあやう先 金下

糸配を取こらまく大為素 金華
 討つしつらせに仕違りつ々 葉中
 あり袖の言羽ハる如信形つ次 以狀
 何き結ひ虫も髪乃出草葉 李徑
 葉六の生さハ甚乃科とト 達之
 摘めとつと経志ける云 種 金下
 冬と明
 ちつ物や葉を定規示雪能寸 風狀

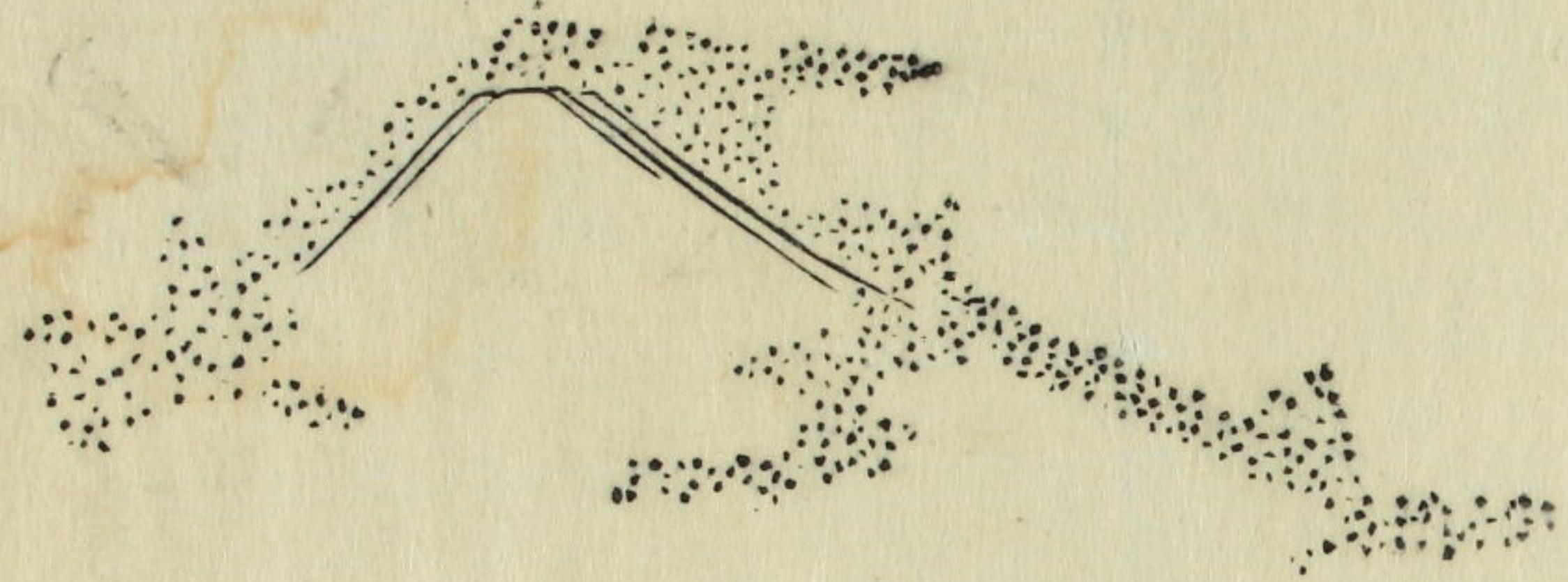
鐔儼

物外佳くは 免をいふ時ありて 象迹
 山乃 眠れ 軒 松か勢 草状
 八分字書 投出を 肝をいふて 長立
 か 毒作り 中と 喉な 乙井 満人
 有の 毒物 起あり 宵に 乾 眉山
 草花乃 市紅 星をいふく 嫁惚

つらうい 生中 括る 袖 俵 蝉牙
 もめ 毒さる 宿る 瓶 毒の 馬童
 鬼形 知世 ありけり 毒は 燈の 君 佗山
 今と 弱多 不 縁と 立 身 山 節
 才是 子 智 慧の 福 毒 迫り 毒 雀人
 後を 毛 之と 心 引 刺し 船 市 嵐
 仙堂 八 冬 極 楽の 夏 けり 記 芋 群
 石田 如 けり 毒 置 巨 能 かな 二 笑

蘇栞は書に能書か不自由な
 其の句も利に自もそん又
 其の如も事福を計修
 不まこと降興園の乃矣
 やる事事深も家去やう
 了士の様嫌のよと明
 少言を言ももさくも鶴
 柳如栞の少老を苦く
 赤紅
 赤紅
 風羊
 吞獅
 以隨
 虚舟
 風江
 赤紅

三十一子誠子如似系
 古人了惚の雪修の筆
 不為量に生ゆ一神と名
 探るる面乃裏手收如
 佐保龍田今の賀成川
 寺ハ七ヶ堂字吾ハ棟
 来ると自れは海も後如
 秋の美水やう以を筆
 其状
 八百
 生
 蜂牙
 嫁惚
 吾立
 沸人
 眉小



甲申
歳旦

初明ハ

さそ

松崎の

波若良

立江戸

雲間谷

羅江

山

山

嗚々梅うらと世能物も身うあ 風状
 聖廟奉納 風雲多
 如くきー雀うらハきー 荳 雀又
 一日乃危母澇り如 山 嶺 山 節
 存ふ作り 被まつちり 以状
 以つたさくも味の録新女目十 風陸 山
 他阿ハ古今も旅母あーり 山
 居め道野うらぬつさくさ 風江

辛尾

明日の香よ

香をよせ

西月此心来入

龜達

海苔よりりもかき鞋巻

師走う那

羅江

追加

侍の懐じ中少海走能柳分

風状



巖且

膝ハとくあハ横小官居外

怪牙齋

龜達

未九月廿五日の歌
清句と感しけり

小車如人の檻そ居る人

葉と玉垣小菊の拍掌

雲と雲同し月夜と合はらん

名前の縁を却りしすめり

若くは杖を懸へる雪見あり

四文字の源しと枝し響け目

下略

賀章

痒りし身と詠ひさくの花

風状

羅江

象達

葱代

風状

枕筆

北野天満宮奉納

雲隅公存

未正月梅祭句百孝風雲齋点之内

未日 声軽し雪笠くもりも梅の友

全 むねの枝は遠入りと隣や朝の月

全 蓬葉ハ舞の去而や神如む先

全 貝持つ梅よあそび海士の暎

全 梅と出さ身ふあそびあそ葉う那

全 申日 元日り誕生日そ代とせんむめ

追加

清句及や香もよそふ梅宮吹

風状

未五月同奉納梅百章之内 雲隔籬

未湖音新形も梅小奇流不 深遠う柳

全 晴るの外もさきつ 籠の梅

全 菟附物 山水結さるも有つ じれ若枝

全 小鼓の音さく じれそ 小葉垣

申日 梅よ梅梅若 ぬらうと 柳

全 己流よ二時 若る梅見う那

酉日 庭う画も梅ハ 初く 築う那

追加

さく梅や表ときい多々 風の音

風状

未九月同奉納梅百章之内 雲隔籬

未日 明日の 言意も 永く 梅や咲

全 滝段ハかけや日南や 西半の梅

全 山多若尾も 川の 一つ葉の力

全 波干も ぬきこ たりし 深山 梅

全 菟附物 じれの音やあさ 見小 向はてき鳥帽子

申日 小葉よ入る子も 若る じれ見うか

追加

さきもさきふぬうつく 葉 そ 今

風状

歌仙

ねと姑音小信あり梅の徳多き
 笈もつるふうらひとあま
 多年ハ胡のあは海もちちて
 ぬくかとうつを境極なり
 肩衣とあさりとあふ山は月
 二人かりし中々みま物
 象達 羅江 風状 象達 羅江 風状

傘さしてかみおかく秋も糸のゆ
 有るゆきと新 平々の贅
 ゆる書ハ姓の根ハ廊さき
 鷹 矢ハ世貴ハ指ハ指ハ色
 二階くす楯も踏く ち利テ
 十髪樂よるゆる蟬の音
 山かおけりハ馬の田地持
 うしよと生世を厚い家愛
 名あつる梅雨ちうつき 朧月
 おと岩ハ 江戸の海むす春
 象達 羅江 風状 象達 羅江 風状

花より鈴東方朝の波あそび免
海と鏡とむらふ蒼と
紙濡ハ漆屋の多際うらやまて
昔ぬよ秋合燈の法をま
飛より花のむらさきや 量 狩
あり袖を帆と後一場の風
かあかの常随の巻よ取らる
ちり見の真小粥あつ照る
肉宮の濠と墨と招く水と
鳥よ連出来道の峰入

羅江 風狀
象達 羅江
風狀 羅江
象達 羅江

菅笠と脱て法に花櫃の海
雲飛ふ月ハ鈴あおけ方
庭あお舟の馳まにむき法り
梅ひよあつふりする伯母
老人の古似と好むハとまこ伊達
脊中も塗つて法一免息
松の葉の骨ハ春風さよらる若
携じく花を象と燈よと
布袋うらまあかめつ新輪
音よ同ふん巾のまこら

風狀 象達
羅江 風狀
象達 羅江
風狀 羅江

歌仙一人一句

初折ハ江戸
折ハ京

愛宕の賀

百菊とあやうき花江や齡と

雲陽存

羅江

月よ萬葉のこゝろを交

垣牙舟

象連

小舟菊よいあゝ酒と入せ

古静翁

山二

ありなうらやま連も出米

無久翁

吾依

山ありとよめ心曇冷ハ雪の暖

射状軒

春人

眼うららの似合ふ髪つる

旋風軒

香馬

ウき縁の羽織もゆきとふり水

九橋改

嘉長

目黒戻りの鳥と水持

新水改

意水

夕やう蓬中鳥か(せう)ろ帯

沾五

量の彩と日時計一又目人

祖行

形甚と松風の追ふ丸巾襦

志言

杖て教へし名西旧跡

聲賀

豆腐ふり巻と好く老の根うら

菘山

根も感へし麻雀

瑞悦

かちくと月小園おちるうら

竹筵歌

翠來

あり袖を脱く重陽の朝

吾佐伴

佐丈

花は水推船もやうー松と舟

快哉亭

眉端

戀も来て嫁ふ散訓

冠子

思ふよあるとも交て吐くり

蘭中

汐干くは源氏貝出来

金壽

仙室いさゝか思ひお根智鏡

金下

子の年程もあゝぬ筆勢

李後

贈まに自筆落たき歌々余

胤公

志やりの戸ぬそおさうへき浪

雁刀

思ひは腹おひあまきききり肉

松仙

人喰ふ智恵い子子子子子

私耕

新屋を尾て思ひかきり馬

魯口

七も書ぬ肌は赤くありあり

橋本歌

眉山

昆河門の辞ふうらや舟の歌

風江

くねり人小松子割る世

佗山

お精金の舞人 見せし得るる意 嫁惚

昔ハ髪の外知ぬこゝり 山首

二物お願をかくハ天報日 満人

鯛の器量と糸を仕よる 鰯牙

江戸神楽をまゐる笑 風状

能く収めたる春風 長立

菊月末の松葉とさき

めづる名のまゝ ありそ甘良花 風状

糸のよき月には十五夜の花白くして 風雲齋の
息をとりけし一月十五夜はの白くまゝ出せ

正月 五十夜 乙未のころかきも初月月の影

二月 今 出る月や観回しハ雪さうじ

三月 今 ぬくの森酒と花や月より酔

四月 十五 名は月を叫べつや月小柱

五月 十五 梅雨分月ハやつりり 露草縁

六月百、^{十五}天知る九箇士の初月月の友
月の友うつくしんおまの初定菓子

七月^{十五}、^辛意地張る残暑（月の笑白うふ
踊子も月出さ初る也 十五日

八月百、^辛名月や庭へんせらる令文紗
文斜八月と肥す山路う那

九月^{十五}、月そ葉少袖も丁とつまりり

十月^{十五}、十夜あ月ふる水つゆ若く種

十一月百、お原近ハ満月なうあ香こー

十二月^辛、解搦八月の兔も上るあ那

未のこし初暮より中秋迄の葉白ハ候の小摺物小
出とそと後風雲高の点とと一月の葉とと葉と
あると

重陽後の雛

百矣、^時搦腦、菊の香替りわ一世帯

五十、^香し那の機嫌は香やいく時雨

十五、^香帯といてまるともや朝の香

晴月廿二日

公用此中平判まよ淋てき中一の
うくくひあまのこねこと淋と免て
三回の別一甲坂よかまをんきあり
出くたり仙臺の浄観一系入る
比きとくに風も烈しくそ口方孔
酷とあまうりなり

月より入るまをけや白浪そ

巻終る

程法方勤のおあはれもつ免いそと
共一文字よ家へ尋達申し事

京橋や宮も

うききじい山

誰情あまうり小風雲齋の机色
床くわわら世を思ひつけれ

右

雲隔翁

吉田冠子ハ人形ハ妙術を
 ねらふ事世人知らざる
 見らば及ハ感情を怪ハる
 去秋菊合ハの遠巻と云
 景よりとつりそ冠子と云
 其作者ハ

徳久壽吉依
 龍風新考言



新陽

け喜もまゝにむめえと唱う那

普依

又よいと名譽曉たつや春

香馬

初明や掃別 詠さ日高川

詠悦

尺さ意ハ喜のすさそ意甘房

依丈

追加喜典

神楽風や今川 掃も少納町

雲陽翁

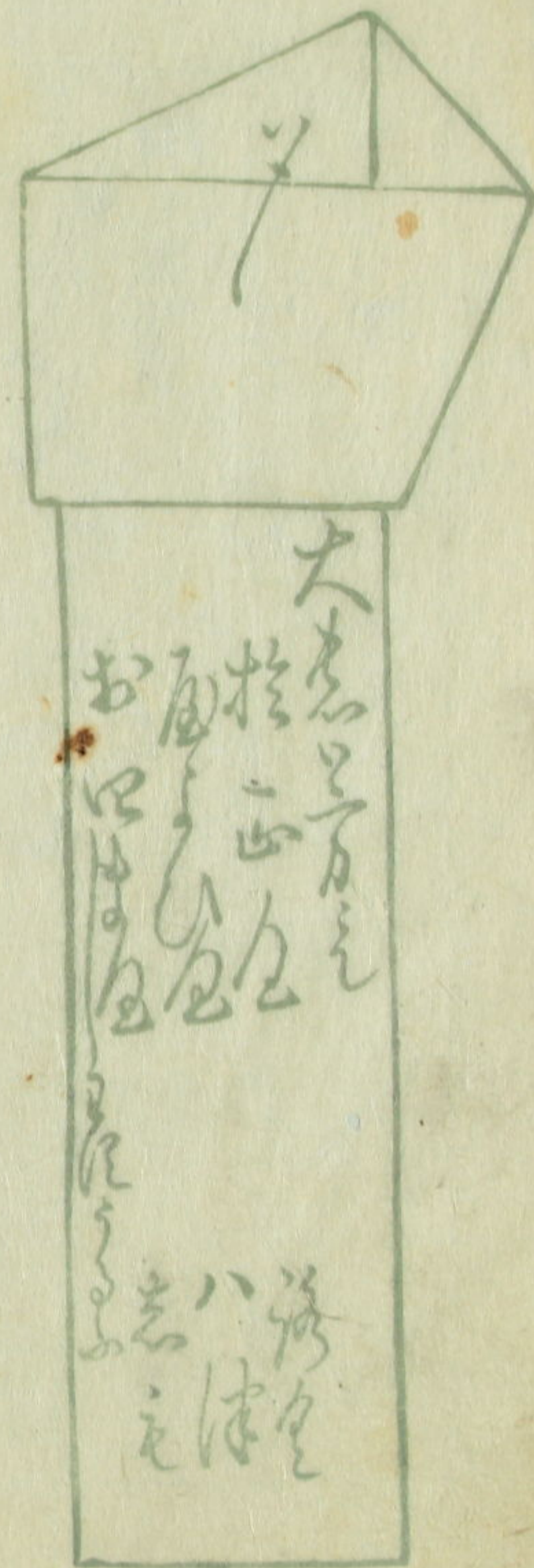
よきうあそ意及あつせりあき

怪才翁

全

陰うちの秘術をつくもあ業ハ

風雲翁



大志武野牙齋を奉る大の部
 小と唯と此書も由はく

七歩の解りぬ酒りくはすむ九十川

江戸之部

首歳

去秋風雲多のぬいれを平よ
 孫の出生せしむ
 居候との傳へしむるは菊を合る
 叶候事を終ふる居候ハかき取
 舟水やとて事いふんはとて
 若水やとて事いふんはとて

守静翁

雲隅翁

羅江

若水やまの酒む居候ハ赤池
 遠業言く教の子も
 をあ日と匂りせりうつハ

年尾

東部の雲小の春とあり

門雲ハ窓ふいとる先ハ戸先空
まろく隣よ今 沼は暮
まきまき雪まぬ官とこぬあしそ

二二
霧ハ
風状

春真白文

世仰の縁のつらきことあり

いさし縁いさ見よとていしゆ万葉
よりの多と短灯と端りし
白小橋とまののにおいしつあそ

古部
風雲秋
雲階

能別と陰

松風や陰社あそと若きり
及ちりともりなること目の悲

羅江
二二

全

東風よ清ッおの形義や膝とるも
あふ小船とものりと野橋
名所のあそとゆふの付ま二とそ
あしとあそとましとあそとあそと

あそとあそと二

雲陽殿よちあじり年ありと

りよもよのそれ なるそらそら

むらやけまのそら

又来るそら訪りそら

無の古集をたつあそ

涙ささひか^{森門}た^い忘まぬ^あ誓う^那

地身齋おぬいよ中

香ハみふとめそ知らせよむあそ花

守静翁

試筆

蘇とりや神日の白ふや乃鳥

古路

菜葉

中えのうそらより移轉をこひ

全

昔そらいと門出遠あやそら

全

喜無

昔そらと明とそらそら青

全

雪清あそ日暮の梅

風状

くらげと小尾目魚や二日月

古路

隣子あうわと屋敷も梅うま

羅江

若草やまこ摘まらぬ垣の袖

古路

あらうんとんと浮智の鳥

風状

上野（ありのくさむら）

音は降るかと

いてやふ上野ハ雪かたかた甚

古路

滝の氷ハ東風り来て解く

羅江

鷓 旦

杵菴

海老野老唐の舞をて沛代の甚

文藝

六十回の本と

家来もはく六百四万甚

全

さうり久しき梅花の鳥

系初（おのゝ）

舞入と賀してさうりハ

舞りりこやそ敷の子まの首や
おつとせい出世二親よりさぬ

全

善真

おさうりや

ゆきも

志がた

松がた

兼善

末廣や

あづまの

くわん



大浴

甲

申

歳旦

菅故齋

梧井

賢不賢し違はなかりや

唱の真

兼善

全

年が初や

あけの初るの初ん

歳旦

文邑全

千ヨシと打奏石一目初日始出 花丸

歳暮

賣買も終る顛頂と一の市 全

除夜

四年八月十の暮を待つ

年一夜五中の川の流踏らぬ 珍志

暮具

の川とりとる柳の動る 全

歳旦

初日親唯何となき 白以那 全下

歳尾

是見と親の虫氷解おたり 全

徳毫

ほいしき免 福寿州 蘭中

や青毫

歳軸

右平やまこしと年と送り樂 蘭中

改旦

年毎小有るる増と去つ日く如 金華

歳暮

冬暮石とほけりて

萬玉如石砂やも雲と暮 春 花 榎 全

歳旦

可笑

年も花も罷るあかり 福寿草

窓いむめら香肉ハ居 蕨 春 香

まゝぬ山の美ひのふとやうふ

歳暮

江磨川八寸瀬も辺一 老 忠 善 全

可笑のわー 良辰と擧ぐ味く 夢へくつり 終つて世宗
門書といふとさうさう法に 唯書のみ代ゆきさうて 終
いつともそも 爰小信と一 草字終味并もその
漢よ極ありと 新指ととく

待春そとよりこぼる清波 風状

歳旦

詠蝶

門堂やいづよ暮らぬ辰つらり

四海も宗よ海老の蟹守り 全

凡しも乞ひ獲れ友より 風状

年尾

年くふ敵ハ 鬼ハ 我蝶

歳旦

静世園

抱てこころ 朝て年とむ清き水 白雲

兼葭

後成思るも兼葭の三ツ折 全

居りし山 法性寺

花の香を採りて 如雲結月 如也

春興

此のふる海老も兼葭の年 全

鷓旦

幼空や何國もさく年如花 嵐待

全

松風全

那の代の後をそ法の咽虫花 是洞

早是はあけり

あけりあけり

梅の日の花をせりさし幼礼者 全

歳旦

え目やまき雲の鷓の延し時 野生

返旦

壺丘山人

あくと年たりそ嘆鳥や若くしり 市犯

業底

月花の鳴ふ酸のや 年日すまじ 全

雪の如乳房なりたり除却虫梅 全

業の法めしるまじとくまじ 野性

業の種積船を除却虫若 是洞

業の清書しるり年日すまじ 嵐待

三朝

君の代の古きすもや 卯の四 魯口

全

物敷といひて 夢ありと 朝の暮 松耕

兼書

藤輪田の 廻泊と 年終 暮の飯 全

夕々塗

善道一 雀の 起と 多き 井 魯口

歳旦

大馬唐

赤ておきや 三五一の 夕と 暮 鹿公

兼晚

三十日 終日 身終 未守り と 暮 全

え 旦

艸屋坊

初空や 陰ふ 夕と 夕 殿作り 雁刀

年尾

酒の 夕や 暮と 夕と 暮の 暮 全

歳旦

一の字ハ三時モ在リ一ノ曆 松仙

歳末

遠業の禁泊り也 大三十日 全

喜無

老皇令

迎清をたつてせり年廿見状 金英

年尾

性ハ若きも是れぬも年を以 懋唐

鷓旦

つらつら小送りを今年
三十七歳よりなりぬ

二の歳うつりふらりか年始花 亦友

改旦

山松也枝をなすきぬも日新 里曉

年尾

月之記の名ありのうハ大三十日 亦友

一年者名ありの記也 解忠記 里曉

箴且

曉告

ゆづりけ身の

御音うら

冬之竹

切炭やかとせ

並入るるまが

名

察々登吾人



元旦

度雪降

汲上るあやふと〜姑あゑは

他山

惠方氏那小あゑは
元旦生卒の忌とるねと

めく〜なを家産年姑 且う那

全

栄書小帳以り

我小寶らねもく〜姑貢外

全

歳旦

喜能齋

明より明めて〜父喜小あゑは

山首

栄尾

年姑内小家そ若やく燦を〜以

全

歳始

比叟

夢さのいつ小

まよふや咽の甚

曆油

市は餅のなるとも

ほり除ねる者

追加

骨かざり

神殿様美法

なるとは

山節

全



三朝

え自や花の心もかゝ孫も

一誠

歳軸

老若のあと先も那一年の坂

全

改且

指かりも花よかゝや神且

虎白

年くの腕りよ百里を海と

かおく志のき花居ふ年と書し

先灘ハ越り除ねる今一改

全

歳旦

南陽録

月香も初日は花雪をふりり飛 考信

古来

氷柱をふりつ 除夜の礎うら 全

新年

四方八方を笑ひ勝り 筆を先 百机

来書

他いさよ梅を先 (春うま) 全

歳旦

人ハ武士梅や流布はもう日新 来之

辛尾

蝶拂や庭小窓を人下官忌 全

雪節

碧ぬる鳥 誰か勝る伊勢の海老 来之

辛草

清うらん 流るる年の荻川 全

歳旦

在状軒

鵲踏ふ起獲つ見ゆり今胡の暮 眉山

年尾

漲りハ年尾もあやや 宵かさり 全

元旦

惠風亭

梅福寿人も花や三つの胡 素人

辛卯

お親の年つらさを思ひて

おし辛くハ父母の齡う那 全

歳旦

雲巾やさる睡しき三岩朝 風江

さみか

陽小向ひ先聲る声やかさり藁 全



小田一舟筆

三十四

え且

起は東のさつ時や今胡の春

常徑

菜羹

年中の上宮は燈小師走くる

全

歳且

風風城の
ゆらお抱んそ

宵くくや白虎青龍明の晝

文香

鷗且

あつらに
暁を造りそ
暮とさふ

日の思ひ

市々のや
かみ解

幼き小輪船
細ひそ

新妻や白鳥の
うきまぬ婦拂ひ

右

田裏莊芋魁



歳旦

餅花の宴と

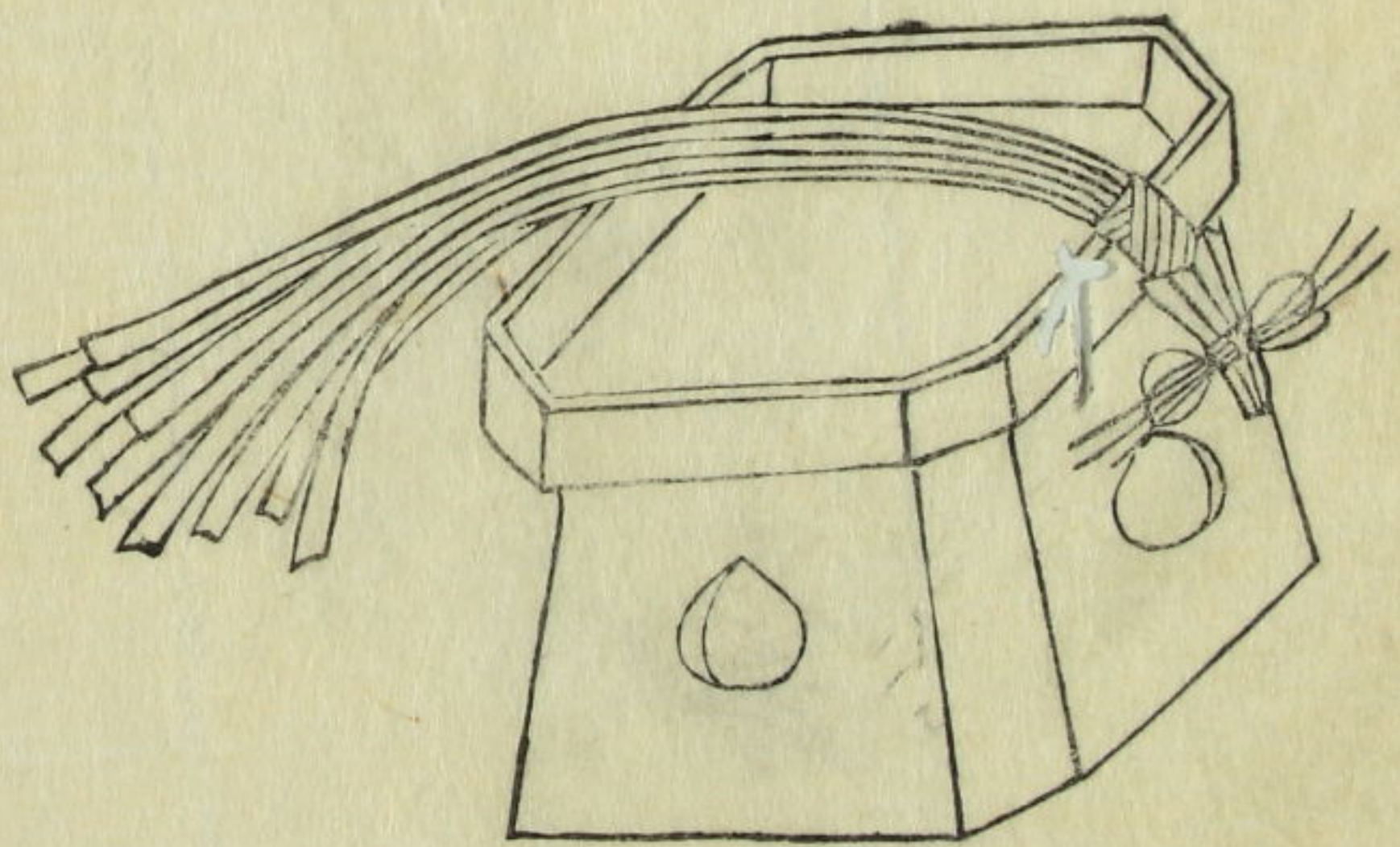
寿考の雑煮哉

菜羹

是と客知る世

持や除夜の鐘

右



満人

歳旦

信の江や風ものともさし初かよこ

枕里

白風子

年尾

とり穴や五束あさりけ年の暮

全

三期

戲月堂

久醫やめらるる何あそふ明の暮

志登

菜羹

炭の香の梅と浮出や除夜能友

全

改且

静書室

万を知り今期一夫や初日日出 才 登就

せいふ

海の一とけりとも樂き所走らぬ 全

改年

吉田のやうなと
まのうり動方なれと

公本席

先向ふ方此司やう一回山 輝牙

業軸

一ツ増年こそ海うら船の足 全

歳旦

上巻羽

天此戸ととく清きや鶴の声 費秀

合

かのくときやうらうら 東海

業書

うり口の音や業は 全

孝年此厄拂ひし 貴秀

甲申大小祭句

大海の世は神日共の春湯が那
 小橋打末もとも平 温盤か
 大も白や子も吹あけのさくく貝
 大も長老ふ年の知くともや 不ともさ
 小雲系子びくともや 田極く
 大もけと 已ぬくともや ち用干
 小雀や 雲つともさきさき ねり髪

大のうきあはれとも 知くとも 月見く那
 小の風や 成も尾ともさか 菊
 小かしくも 卯らふともさ 月共さ
 大のう葉申も おのりぬ 糸さく
 小の月小 窓いともさ 厄さく
 大のうりー末と 産共の 年わさ

名

共共

歳旦

中の字と祝と事あり

祝

万代の中一 並一 庭竈 蟻

全

秋津洲のとう此実走や初曆 鶴子

全

物中不能此御風やあまのき 文面

全

星のまき清代のからなや三下一 冥二

年尾

移や難波で見らるあふり 全

さもありぬ十七日ふりの書 文面

平斗もともく後小年書ぬ 鶴子

あつらひぬぐもよきぬ 蟻

菜末

双圈

まろしを居ても双若見見分。夢仙

昔分

世帯のくまの福ひ初るふ家ハ

内や亦と分るゆなき追儼哉 全

菜尾

苗年女事ハ終りぬ事う絶 文石
本終る女方も師走の遊云 水雲
あつり魚ハ師走と歌く菜尾 夢球

菜尾

とことと杖ゆさね年坂 宋屋
ううめより親子首季は口拍子 宗智
あま武もつひあつはよ陣多き 塚山

甚真

梅咲そ鼻張かき日御分 武松

吉歳

齋宮の庭を見り醫者ハなかり分 春雄

年暮

ふふいぬに宮も起は年暮ぬ。因石

吹きくん揚ぐ年の遠鞍風 煙草

春水と師走のこゝ小艇一 十日

歳旦

綾西店

福藁六伊勢の津田のこゝ今如 夕静

年尾

綾西店ト居之也

蘭蕨鉄己の屋根こゝとと友 今

歳旦

青玉案

芳芳思案顔如一ふりりと 文雅

年尾

漕出を妻の海くん師走川 今

元旦

友達も先改むとつ日輝 蘇状

年尾

春と詩今宵一初と年終る戸 今

昔西や人も本筆結乳見身
多よを孫人は足那ー花のり
五月雨や淋くと名も池の岸
烟の巻と明もり今日秋
立すこ世と持婦切毫外
見も月そ友のころのを目
まの物や京と定知ふ多し

右末ノ〜〜此以

風状

春興

採題

名畫缺員

松蒼堂
布袋
金華

友禪
晴虹
眉山

一休
蟹
雪人

雪信
三笑
蟬牙

光琳
桔梗
蘭中

尚竹
蝦蟆
私耕

土佐光基
お少
雁刀

宗達
あま
佗山

古閑
大黒
李徑

益信
鯉
金華

雪村
伯夷叔齊
禾雨

土佐又吉
志見
胤公

南風の

聲や

さひく

系柳



長谷川山樂

火之原

山節

全暇

朝比奈

浦人

英一蝶

妙郭

葉中

海北友松

猿猴

珍志

東寺什物

鳥羽僧正筆

金下

模這小成て出るや花の幕



四十五



あつらひ
七賢人
おぼろ

四十六

世も思ふや臆の程も子まゝに



溪
ひく

山
若

笑
ひや

六
の
花

花



る中や
ふくと
ゆひさや
花の歌



四十一

狸のあや
仙家小
か
ん中
糸



四十二

た長長の
勢の
福は神



るせりー風さ
花の男伊達



氣ん
國成
換
蕨打リ



あゝの
救
け
や
池
名
面







そり持とハ
目々定めら
まぬ
雨さ
か





鬼の目も

かゝる

浮世の

なまじり

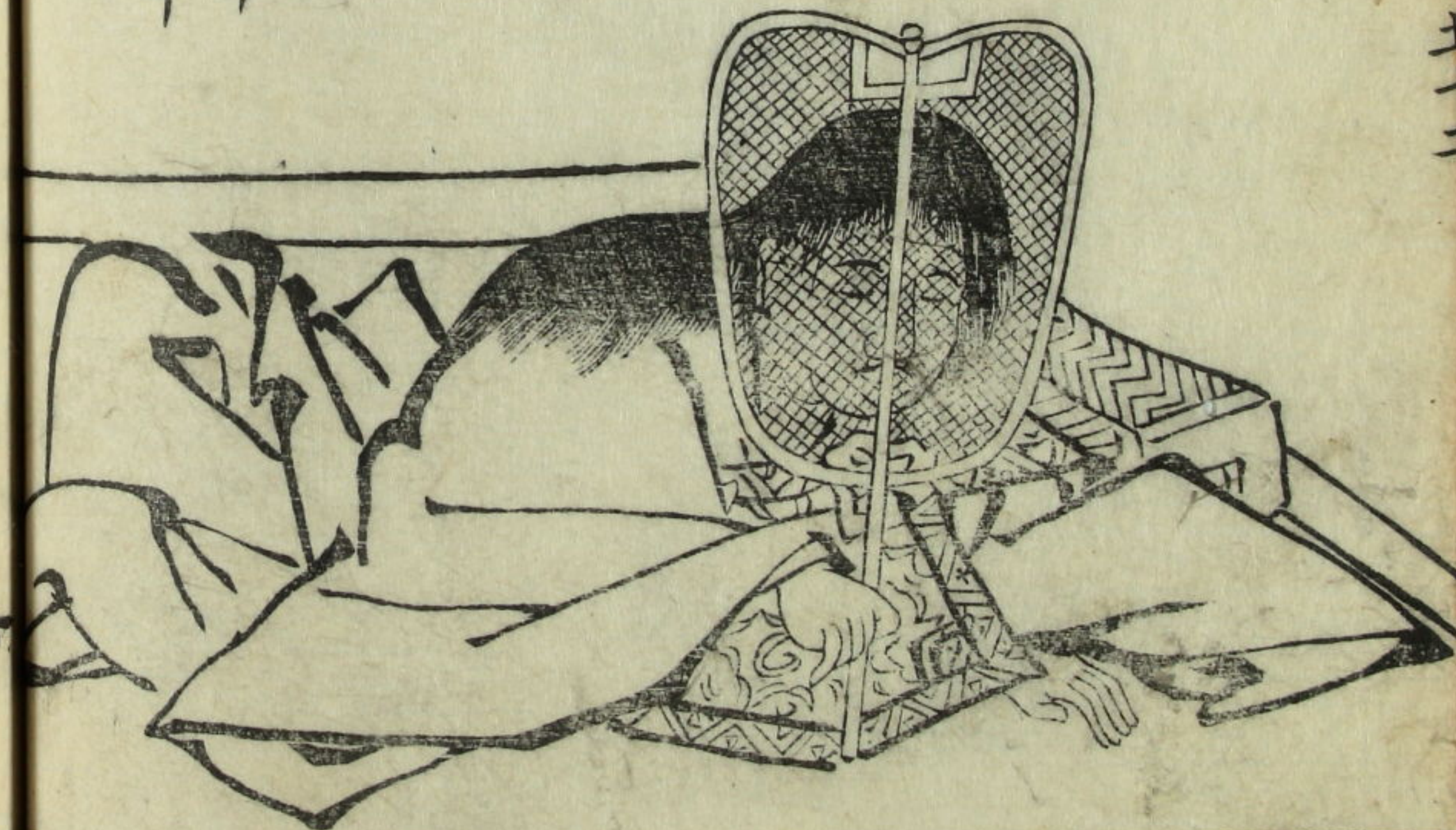
三十一



猿
 雅の
 子に
 取
 落
 巻



見
 春の野
 与
 幼平



十一



大笑以
真小
耕
孔海



五十四



五十四

思ふはしあめをきこしるは球衣巻箱

ぬきむてむき着うる指うか花紫

青柳やあをこまこひのぬきく十市

地直いさねを園のお蝶のりよの敷 長歌

己の友よこころをいかにむの暮 二藍

死くの花よよるこま守鏡 文車

はなはちいづねのくるねを
琴津風
あまや

芥つむや下しあるよの君なる
瓜生の

うらうらとあぢがよの常陸常
ひ糸路

とくまもも時しと今
むつみ
凍衣

玉琴のおいとまふうし
羊太夫

舞踏多岐くえす

踏多岐くえす

おもひ多す

櫻狩袖めきうけく 吞獅

蝶々も人も着て出る、太祇

庭うも

歳旦

遠菜やうきと積つて 教草 吞獅

雲たつや雲あゝ家の遠入口 風羊

象鶴ハ丸く西より 初日始出 五紅

兼書

全海龍ハ金花山ホありと云
子のあいつくよりうめ出らん
と一語らぬ事ハ引きてぬめり
歩くなありぬやたせ

衣の身やいそぬなる 海龍履 吞獅

采芳

解つゝや海鳥の始見をこころ

風華

澄舟もかくそい引あかさり池

五知

全

来人の青と活とやあう船

斜天

全

冷なうゝ師をあらけし播ら

右張

仇國之部

産列
到來采

江州大濤連中

歳且

楚岸子

一年の活無きとと初日う那

采芳

全

年の矢も誰かき那

陳叔如芳

歳旦

天の下初とく初るや福寿草

夕浦

半初や壽延字の雨ハ百さも

五柳

大ふくや煙ハ民の初かす矣

湖秋

歳尾

金銀も年初りぬとく考奥

夕浦

燦掃てふく風清く神のたふ

五柳

幾億の射とて一子や軍家の的

湖秋

歳旦

蓬萊の味なりたりかさり炭

采之

かきりる世の初るや鏡餅

千枝

年梢

若く成年の化粧や宵かさり

采之

呉布のまよハなより年の園

子枝

歳旦

漢明丸飛

堯舜の代も初まきし神代の晝

一唱

せいぢ

世ふ日をつら初るも師走の節

全

歳旦

淡州丸巻

仙樹亭

真摺

清くぬ 伯家の巻也

松かさり

兼芳

全

春の来り

龍石もあや

餅むら

甲申のや

聖節

越前大野

去留亭



身よはすまこと言の巻もつぎ今朝は春

鯉尺

梅乃如くきをわさく手八風

長立

縣召みやけに砂をまきしらん

風狀

神雪吟

古川雪戸六寸あり

まゝは雪の程

去雷亭

歳旦

勢如春や山も目まぐる細笑ひ

桃溪

筆結おほくは美雪のふ松

可用

淡つゝ山草鞋の紐う海苔吟多

映水

其二

元日や神代如傳の人々ろ

映水

真とくも又家々うか神禮

桃溪

不やくや梅も石寺は春を觸る

の用

其三

立之り又も此井乃けし如部

可用

名もおろしる春臺如楪

映水

ほ名殿の笑ひ台上手喜め如部

森溪

其四

疎鼓苔沙々ぬ代甲初ハ序
暮雲
禮英毛子々々正自乃式
湖舟
古きく柳店々々如如女初々
舒如

其五

去つ空巾々々々先晴霞里
舒紅
門ハ舞込美華如露
暮々
空舞々々緑母如も多々中きハ
湖舟

其六

明渡の千里の空も海もあ
湖舟
吹く浪りふ門 如乃琴
舒紅
鳩母宿借きハ家母も共やう
暮々

年尾

年中の暮もあふる除夜の鐘
湖舟
漕き々大晦日ハ軒屋
舒紅
何々々初々雪除夜の風も何々
暮雲

障之喜言くま重々 新の梅 可用
系物に高る 貴州里 春隣 映水
節季有やふさるる 磨賣 抵溪

年軸

解法了内兵之海まゝ 控し 鯉又

追如

齋宮に臨言女子有へし 滝身の園 風雲齋 風狀

歳旦

江州中河内 松柏亭

元日ハ 皷節延と火麩斗 分 後剛

風もま宋又 門の春 介 全

意とあく 柳の岫と 傍る世々 風狀

菜葉

一足も 恒々せぬと 松坂 後剛

蒼天

豫初古塔 呂律亭

傍るぬと 地の蒼也 若律定 乙風

時雨

勢回矣 搖尾也 海も 志も 運も 邪 乙風

嶺且

信華

蘇陽名

笑ひ 神、回子と 積り 山くろくろ 窟人

福寿草 幼くや 家のまへ 言葉 嶺々樓 僂車

きいか

多羅人よ 見せよ や 虫の音かきり 窟人
市の灯 八年の 園遊も 危音も 僂車

極多喰

白飯の 実生も や と 細の 厚み 窟人
四十一 四十一 志願 山さく 邪 僂車

元旦

勢洲 新和

碎月洞

初笑ひ 届くや 居 獲の 一滴 桐 函

辛尾

いと かの ちの ちけさ ちん ちん も
たの ちん ちん ちん ちん

明多や あいの 懐も 小 辛 数り 全

言分 年内三喜ハ古
初春の夏蔭ハ文刺
あゝゝこ 去年より三 申年男 桐西

歳旦

江刺八日市

有隣齋

初空や雲もかすみの 慶年目くち 海路

全

回所

四時より陽は嘘なり 柳かき英 雁橋

柳かき亭

年尾

是れあり短尺をこのとく けらま 海路

全

岩陰の矢の音なりん 除夜者 撞 扇橋

伊勢安部連中



甲申

歳旦

有隣齋

公まへ 波江揚みり 初手水 寄人

筆書

今年とは賑はひの年 全

歳旦

艸隨全

杖小突 蜀士の言 根や 初日 御 子風

亟彌軒

勢々 力雄りや あり 名基 湍水

九白亭

胸の雲 空を 蜀貴之 門の 松 巴喬

知足軒

君と ちり 非や 初日の 後 研 道音

年尾

年の 瀬戸と り 足 暁 乃音

影玉の すり 刺 屑 なし 或 陰 秋の 名 巴喬

初年ハ 撲柄ニ 越セ 年の 瀬 湍多

或る 罪と しく ぬ 夢の や 餅の 花 子風

歳旦

但別英舎車轉

勢々 ぬと 山の 名 或 初日 夕 南塔

さいか

い 孫 柳や 船 如 夢を 夢 不 年 如 市 全

大坂書肆 柏葉屋と かくしりて
曰玉意海 写式と ありり也
是 無

南塔画名

懐可 去 縁 弘子 沖 法や 春 如 あり 周英

但馬八鹿連中

七十七



歳旦

白雲舎

初笑魚

うつも鏡や 天下一梅橋

歳旦

星よりなき玉の鏡やま川日影 松風
 年も来も春くあやきそけしめ 梅月改 景宅
 大あくの白ひハ花のおまろけ 直風
 神日の出四方のまゝの笑魚うら 山伸
 昔先よ勇むしあや居候機嫌 天兒 勇志
 神かまこ花自今幕の多本くら 信堂
 春路のまやしせりり 金鈴 文白

菓書

在百小成ても	淳や	年	の	進	新橋
きなりも	星小	屋	や	年	一
人並小	目	出	度	年	の
きを	又	及	そ	後	始
い	く	度	も	越	ハ
菓	書	や	之	ろ	の
積	お	一	東	風	の
手	繩	引	寶	北	船

歳旦

丹波上林連中

鶴 陸 小 麦 沙 汰 也 形 一 明 の 甚 文 里

天 の 戸 の 是 ぬ 工 合 や あ け 能 春 蕃 花

明 寺 方 や 夕 也 戸 是 ぬ 世 能 也 名 一 文 市

菓書

とて書や年終りすそお浪連かきり 文市

新とく結るうわの掃花さく様 簪花

と好書事と伏見も年の汗 文里

追加 題 燐掃

風重なる

富士嶽波がすむや師走十三日 風状

鶴旦

作のまゝ

くつしき 庭より きのほふころろ 如柳

美あやせをともひる日れ鏡 嘉友

とて又またの 筆を紙に

今も心紙をくちくち 写家



三言

水も静り漕ぐ〜三言 柳

餅搗や柳のえさも花盛り 髪

由り〜 冬好まふ 筆

〜



歳旦

廿房と

あわらひや

むら〜月

き歳

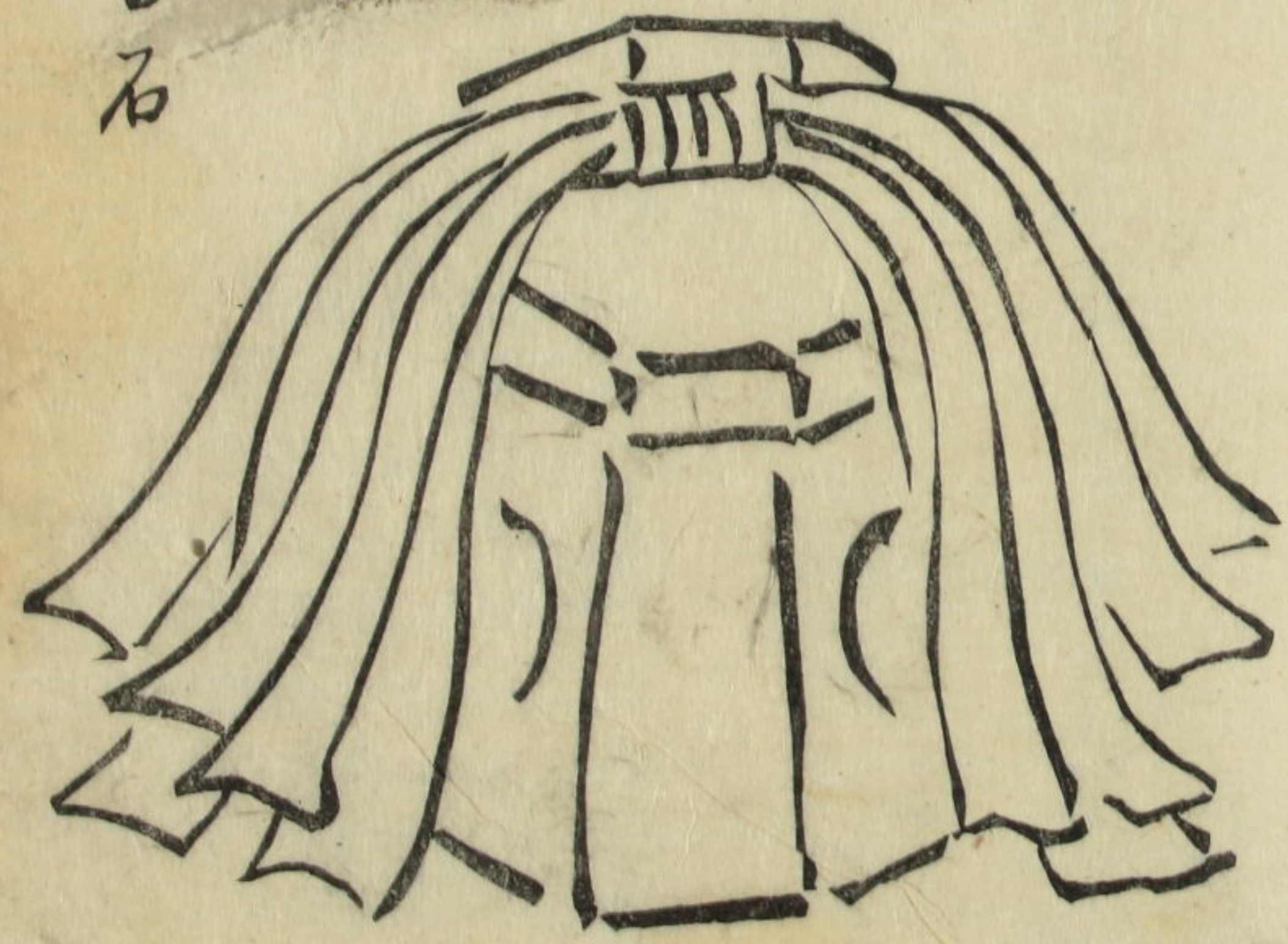
餅小籠をいばふ

未の暦うら

江州中山

玄々齋

管石



伊勢櫛田川連中

歳旦

伊求改

耕さば穢らば是りたり是る始

嚶山

第すめ小舎毛虫一之の若朝

隆岡

百篇の詩も是よりそ居蕨の酒

赤翠

茶書

海に雲小見鳥ふは春も先書ぬ

嚶山

子休等ふいらつ藤さまつとの楽

隆岡

知章馬家あはれりきく船

赤翠

歳旦

そや初日あふれ物をも目やこ色

柳巴

今

こころ事三時さる年の初日う那

悟上

年尾

六十の年も障りかきま

老負そ達者よ越やとくの坂

今

歳旦

伊勢雲出川上

若水ふうつる笑鳥の新清

歸祿

辛酉

曆の帆無事の入津や大二十日

浦縁

歳旦

勢州被川

耳をよや竹も節なき 風名音

呉夕

歳暮

度りもいとあはきも年日早き

今

歳旦

花月のかきふまの事もきく
ふし聖ハ今年も何れかと
同志 旅の物とわらわ

伊勢被川

盆の名ふり舟の旅をかめる齒

尾丈

流年

年なるや津と漕ゆく伴舟橋

今

勢州西宮連中

歳旦



跡よりや光まきく 玉名喜

志我

歳旦

元日ハまことに白一年にたこ

是出

今

賣り物も買ふ事や若るは也

一房

兼書

おしよと有る事と記師走の節

志家

持よりや信屋住居事亦あり

是出

いそしや隣ハをく喜あつさ

一房

歳旦

初め字と

皆と冠の

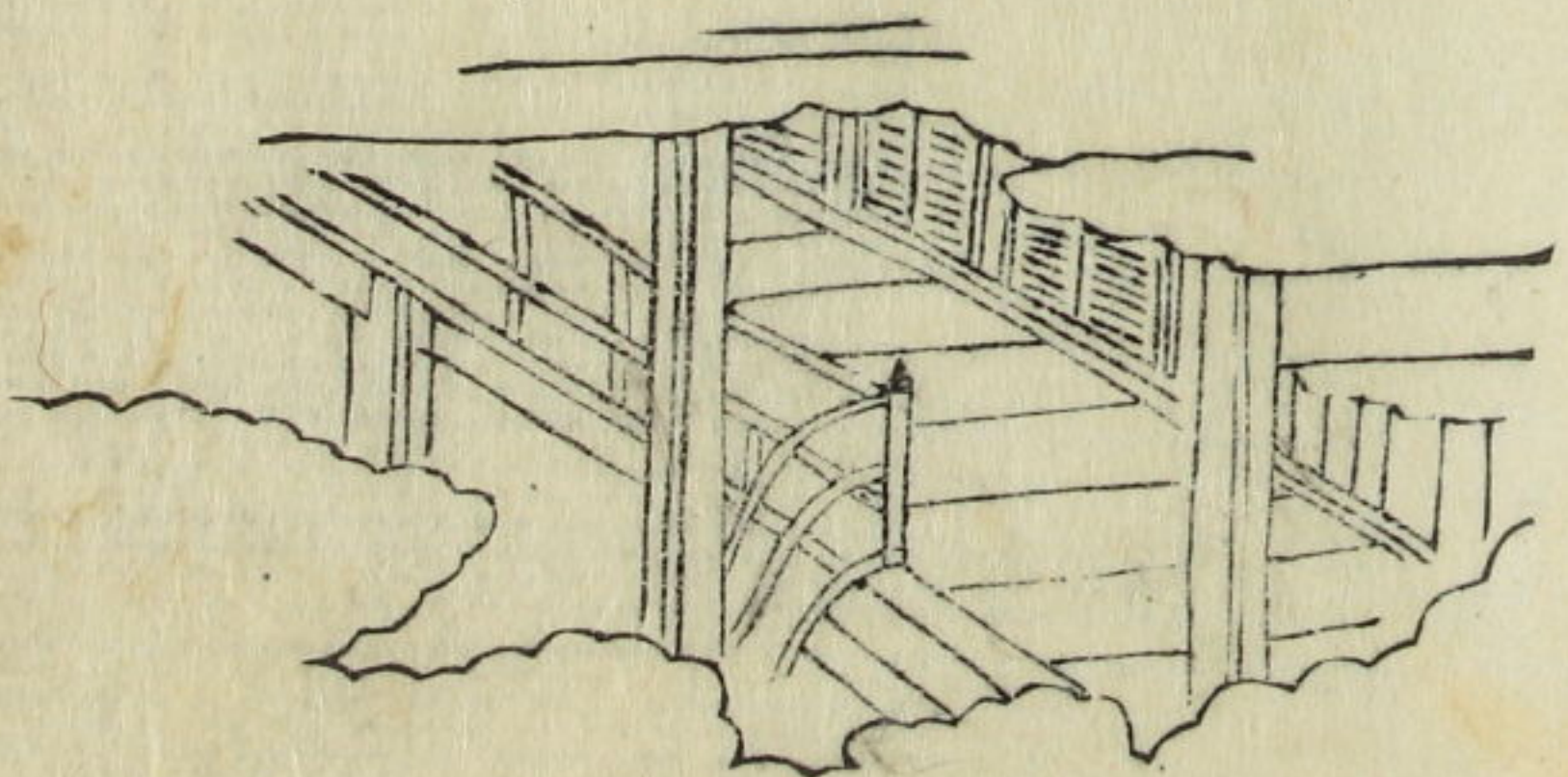
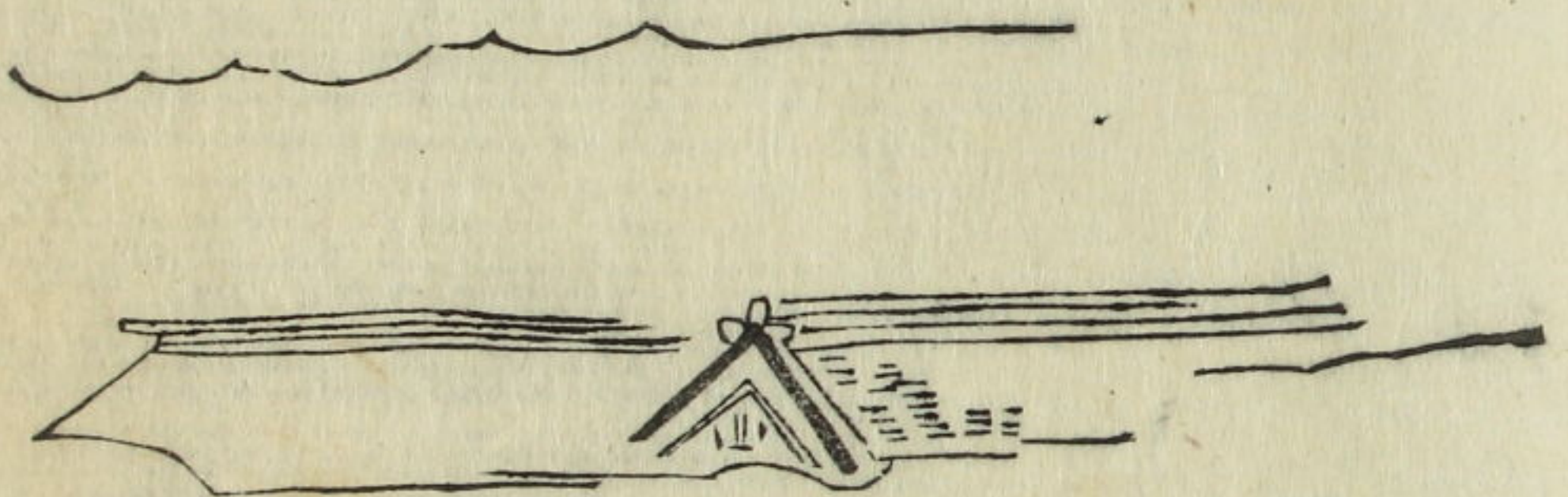
儀式も

兼書

涉瀬とも

けり兼

年の川



紀州安楽川
青柳舎一曲

揚州始活連中

歳旦

四年、活ありを

志しき友も多し

陽の玉ふきを連中

長履堂

白田

昔胎やまふふ地す人

改旦

旧年上糸世を思ひ出を 前回

ふくねほいこやこ小明の甚 民磨

歳旦

春水堂

じめの香の明て霧もや今朝の甚 壽齡

鷄旦

春朗堂

何事か交はるる日けよ門かざり 英人

元旦

つと世の祝ひをめで三の胡 旋江

三朝

桑原洞

玉久一のそやハ鹿やう國の甚 泊舟

試筆

栴風軒

皆おろし美由そ 三朝 吾海

聖節

不洋園

遠業やいハ色言さ 海と山 丁先

業 暮

邦君 曾却おもむきあふ 佐藤ありそ津志りし

まこふ時りあし

見よ之もを雲升ハ花や雪の縁 全

歳 旦

伊勢松坂

不敬齋

法人の顔面白ーを 日日出 笑山

古業

一年の暮ハそり 除夜の鐘 全

歳 旦

丹後大川

荻本

あ〜〜〜又も縁あやをの曆 吾斗

業 未

ふ〜河と目出及海と業暮ハ 全

石州大國連中

歳旦



浄愛ふ論徳徳はも徳徳も
花の親月のまやま川日親
月花の種と配りし初日
角傳今日舞そめや年の猿
曉の滝も変生男子今朝の基
世の事の後ハ昔々り々さ春

補拙
江橋
孤隣
清雨
吟風
池あり

え日や古く見ゆハ音をうり
雪の海邊ハももろ日うね

楚江
積あり

兼答

餅の花ハ人の梢よ咲おろり
提灯の月夜こもり大三十日
知もても目まぬ年の徳月外
虫う〜に短もね〜年一秋
是う〜ハのふる居こと〜の坂
一年も隣子一章や大三十日

吟風
補拙
孤隣
楚江
積あり
池水

鷗の橋と往來や年と年 江橋

甚無

浪西とあつたるこゝも柳水 江風

若雲の素と定る若菜う風 江橋

仙酔の轡仙酔の空月

仙酔や人とさあそむる月 積水

菜始 石洲大浦

老の坂越る氣ありしつ日氣 龜卯

菜末

歩豆の軒船うや厄をくみ 全

試毫

石洲大歳

盤影嵐

天照のや傳ふも年のやまうつ 立雲

菜抄

月と日の轍なりりり 古曆 全

辛始

同所

嘉辰齋

明て今胡麻子以辛奴 福壽州 冒賀

辛尾

大海へ落るる乃よ辛北川 全

節

石川井田お

晴光樓

本と不圓や妙目と年結花

巴江

兼軸

あんど水む喜(つ)つ一歌うか

全

改且

回不

長三全

めでことや勢の細とく神の喜

一色

兼末

來年へちやまの届く一來う那

全

歳且

回不

彩あ書

福葦也目せく場あそはくわを先

巴雲

年終

光陰の園中をく九大三十日

全

勢且

石川市山

神勢や先まらうう礼とのへ

一瓢

未結書の流義とくを居るは
中子より兼末來りそ

兼末や孟宗竹の二葦生

全

石洲是智連中

歳旦

探風園

歳旦も一度も閉く神のま 始連全 如三

乾坤の若菜身そ袖かき 毎々改 不枝

一葉軒

蓬菜やかさり一夏の増日親 菜月

辛尾

大の字ふとりの足一年の暮 如三

落馬もさゆく花そ辛尾の 不枝

帳面や横巻をいと一の暮 菜月

冬吐

臘梅の冠け一暮の白ひの中 如三

歳首

勢明は清水 池あり

戴て目今とつ袖やかろん解 不流

辛尾

暮と呼吸声そあまの辛尾市 全

歳旦

因防大詔久賀

時来戸名

二見と六八の七つおと期を長

樂行

兼善

橙やまをひくして不二の善

全

甚真

煙も倍さをや杖の体む肉

全

糸針とたなと一師弟の仲ありつゝ
弟のまゝとて一もやうと一如
七十式唐櫃かゝるく目出さるる老
妻とむくらわいとやまゝとせ
かゝる

氷張今そ中くむらゝ月

風状

丹波大山連中

三元

わら



天下一と銘とをけら孫鏡とち

素行

砂もころもを極くそと玉

産屋の子芽花露とちあもあ

年尾

皆すゑお江まつまにちり餅乃波 全

元旦

風穴堂

自雪の歌の袋戸一苺のと如 亀角

買 初 入 徳 門 台

薰霞高足鞞 龜角

筆尾

慙のなほは身と廣き所是之肌 全

改旦

蒼引横中 初日能出 醉之

全

尔年経る世は笑ふや乃去 羽柳

手巻

杉よりあゝをかくむ戸大なる日 全

寔くは去くちうきとあめの花 碎々

藝州御手洗連中

雞旦



清月楼

思ぬ春を先ゆく身をも 盤古玉 蘆舟

冬と一巻箱の

佛の生く連るく

在永

月星アとつ日 昨は影も廊下 蒼雀

亦お中白くぬ梅く 白ふむ然 蒼雲

内初戸門をまきく 家の春 蒼溪

波の音亦出の溪や 初 蒼南水

面にお鳥乃去るも 常く似は 陽水

粟油中黄金積ふ心多う船
 先礼ふ大ぬくやふく福如神
 一膏と去手ともひとく明の鶴
 雛ハ後富きと金乃ち川鳥
 大福小作家拵ふ戸家の梅
 空すしき月を思へ孫梅如冷

波境齋
 友雄 歌笠 冬羽
 友雄 歌笠 冬羽

志手師の思を
りし強りりれを
 吟積や夫の如く次如漢生新

任土齋
 竹子

兼書

東武下人筆のあは

大富士又おふ戸中一俊
 ツラツテシクあつハ舞あよ年ワきき
 ふききと福不柳や解の難
 萬葉の素袍もいすも飛落る香
 猿拂の次子了待ふや梅如恒
 すく右起ハ生をくらく葉山か
 え日乃兼持もつらん珠衣の母
 叩く水と春を待居る多とか南

竹子
 冬羽
 南
 陽
 吳柳
 歌笠

院川や年のとほるまゝあつた乃
 友雅
 石橋乃身ありゆりくし年の暮
 冬秀
 杵に咲雪々白ひ戸 宵踏全
 菅籙
 越安—むのみやまぬや—の板
 菅雀
 風皇は成遊く—の詰まぬ
 菅舟

目録 若胡屋

女まゝ中

兼えんま今日をい神者戸 四方紅燈
 高野東
 おく—もかしの鳥やあけら空
 きん山
 内ねや糸代のえ—を結ひぬ
 是た糸
 神神中 古きみ菜もまゝ 若菜
 志願川
 あえり者—糸はきぬ—の袖者ぬ
 袖花
 まゆつらやを縁にまゝらぬ袖被
 口むね地

藝妙海手流娘を社へ爰向す酒乃志能西望能
諸好士好方梅柳の心爰向す榮華を好む好む好む

願主

高橋菫舟
中尾吳柳

都鄙御連中梅方へ爰向申す月と雲初風雲齋

とどまのつらば先料を望む

清月梅

う川乃為梅めと一 あり梅柳 菫舟

梅の全

玉垣乃の梅好うつりあり梅柳 吳柳

石州小原連中

歳旦

賢人の笑息や見るとは日如き 朱蘭

はつりめとんよとる乃ぬきつるかな 世子

三十のちのちを定む

初春や露や〜〜は玉津島 儉富

〜〜は草堂のちゆ〜〜や大旦 芝蘭

知て〜〜は梅乃降るや梅の影 鶯啼



東君の不三片立砂日乃去昇
 來
 めて〜とほろふ種戸明如夾
 如掃
 若水中ふ如味も 乙下一
 淡水
 去筆のりいん〜と如今如の種
 潜魚

鷓且類松井

天ノ夜嘆や 以君 相 爪 出 字
 莫風

筆筆

手の肉く去ら事おけ里為子
 潜魚
 以〜と年を前ふや大之十の
 朱葉

賣買ハ為此次乃帳戸一終一の市
 如掃
 ありき〜も〜年む〜如り年如川
 為掃
 名月如脊と〜一 大之十の
 候富
 月と日の玉手葉、戸 大吸日
 莫風
 葉の身〜も〜一 二つの葉
 来
 之十二〜と〜一 葉の金
 葉葉
 解揺や虚空如中、杵の香
 淡水
 峰 雪もぬをま〜や 大卅日
 世子
 有 於 心 之 邊 之 也 於 心 墨
 葉葉

第 日

石州大森

ふつうりと念もあふや まつる歌 洞登

第 告

い年にと弱ハナ 老乃板 三

歳 旦 伊賀上野

新語の掛ふや 望翁笛 洞秋

年 尾

免し魚け年の登人小松山 全

冬 以

聖代のあめーと

障もあふ少紅石 水 かん

聖 節

伊賀上野

臨風舎

仕言も恵方 向りあり 明乃表 露頂

あつ手 在 腮 己 年 終 菊 人

品 五 や 家 折 とも 男 昔 采 小 多 五 明

其 二

好風庵

請きぬ 濟代 紅 福 花 の 春 五 明

子より も 秋 の 名 破 戸 弓 高 院

巧くさ とも 中 肉 湯 出 七 菊 人

三 之

固坐園

まつ や 新 山 け 心 まつ 日 新 菊 人

南枝う風ア、おしひ雪
五明
露頂

筆於

春を待すこその根とくなりふり
五明
葉人

歳と

目新 長き全

明くも新玉もなや 初り乾 風麥

年壽

今少し申とはるぬまのふり

奥州津輕弘前連中

歳旦



此君亭

羽織より新しきもの 文郷

静あり 所より 風斜

福のしるし 山笑々 如珠

今こ

老若もいさよき 如珠

礼若の息了 文心

取毛乃杖母 以斜

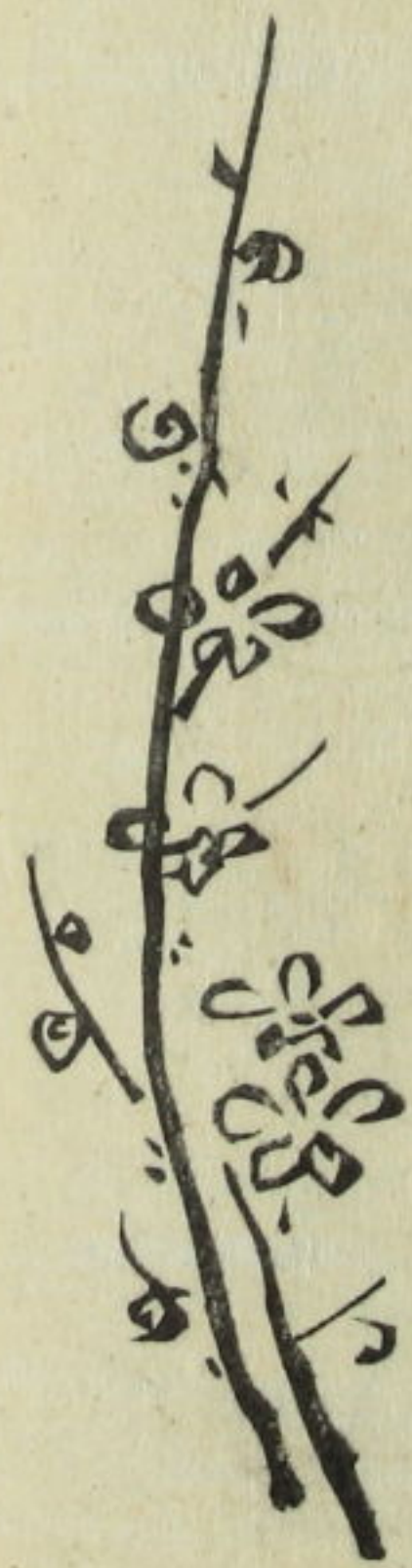
二
三

水の内へ登り来りて
家神の歌
風斜
露分は是れ
吸と井の
此際
喜如山
三弦ハ山
居一多
文郷

筆
斎

張て有唐笑ハ人
か
の末
冬科
幸乃矣
追離の鬼
了
由
た
ま
多
家
富
家
黄
山
ハ
松
也
縁
る
水
や
文郷

歳旦



西園堂

年如樹
一
花乃
咲
ん
三
ヶ
日
芥
花
除
丹
手
を
流
爽
引
乃
饒
化
月
不
雪
と
雪
如
村
消
息
連
へ
と
化
月

二
三

雲
洞
齋

夢の擁護と
門
一
夜
松
化
月
六
福
神
如
揺
羽
子
ハ
智
羨
花
此
の
波
中
ハ
緑
を
帆
寄
請
あ
と
全

雞
旦

恒
ち
り
東
天
光
了
阿
の
真
五
耳
亭
如
東
曲
元
日
ア
松
子
ハ
山
と
笑
心
也
如
桃

九十九

歳暮

帝幸以ハ晴砂一ト入小を里
照母尺ハ江以の念心や降叔の柳
光陰のハツ巴尸一 大晦日
告書一松子と云一 除却神示
如 桃
化 月
東 曲
芳 花

歳旦

古き古きハツりふと

江戸見一 神日とやさう雲あや
晚 吟

業義

新解人事おもしろきを以て

長巻の商人ハツらん香の布
と

歳旦

仙杖堂

年如花非如ゆつをを 江中 文 笙
廣 蒼一 積む七 孝乃山 松 鱗
能ハ口突ハお樹 乾 尺 日 文 梁

其二

秀葉亭

若水乃車に言一 鶴の屋 文 梁
米多 杉 形 花 尺 乃 香 文 笙
川やの影を遊ハ 凡中 何事ハ 松 鱗

其三

華雲楼

唐蘇の香やまやまか 咸海さの色 松 鱗

福成やうま 松うる門 又梁
山はくちら 仙窟乃 山口ふく 文筆

歳暮

耕村

来る春水申の引 出き 鹿うぬ 文梁
やうー空の 芥戸 神糸乃 大晦日 松鱗
乾言ー 勢ひ 杖も 手口すれ 又筆

歳旦

荒穴菴

福孕む 岩田 帯なり 恒連うさめ 雨収
餅搗や 酒ハ 香羽如 融の 水 乞

歳旦

梅は 枝推の 夢う 夢
露も 押しし

富士



大ふくや 雪解あくる 不この 蒼 甯江
そよ 只ぬ 花の 健くとも つ 霧 皆橋
娘 持チ 樹の 一りー 妻又そ 巴 光

鷹島

えりや 鉄の 名を 志を 極ハつまん 紫橋
相 難子 うち 音 為き 融 巴 光

輕くする之はも亦地乃能高き

備江

茄子

くむや唐後華代古梅如種茄子
列上ノ名は海も種係
花の鞠町家斗ハ告向小多

巴光
備江
備橋

果暮

名あり井あり

去り井もたふ乃あり所是會
飲明ヤ年遠き井の幸者
影深き新中山の井も幸の底

十知亭
木槿菴
東海
備江
備橋
巴光



讃州高松連中

歳旦

梧比齋

姫園を移す初日廿十寸鏡 青邑

歳暮

世の垢し世の陸日と蝶拂 全

歳旦

御慶と八途中に摩斗の初る方

羅俊

歳旦

比國了さす妹やけりす若し

乞

歳旦

姑もおとく次咲甲一甚乃矣

起友

むつまーい凡倍多ん松如さ里

其教

歳末

物音や舟の中にも事仕疎

全

難丹と机了年をも書取らぬ

起友

元旦

何事も男子候

勢以保

花

考

何事と

杉ふ経あは

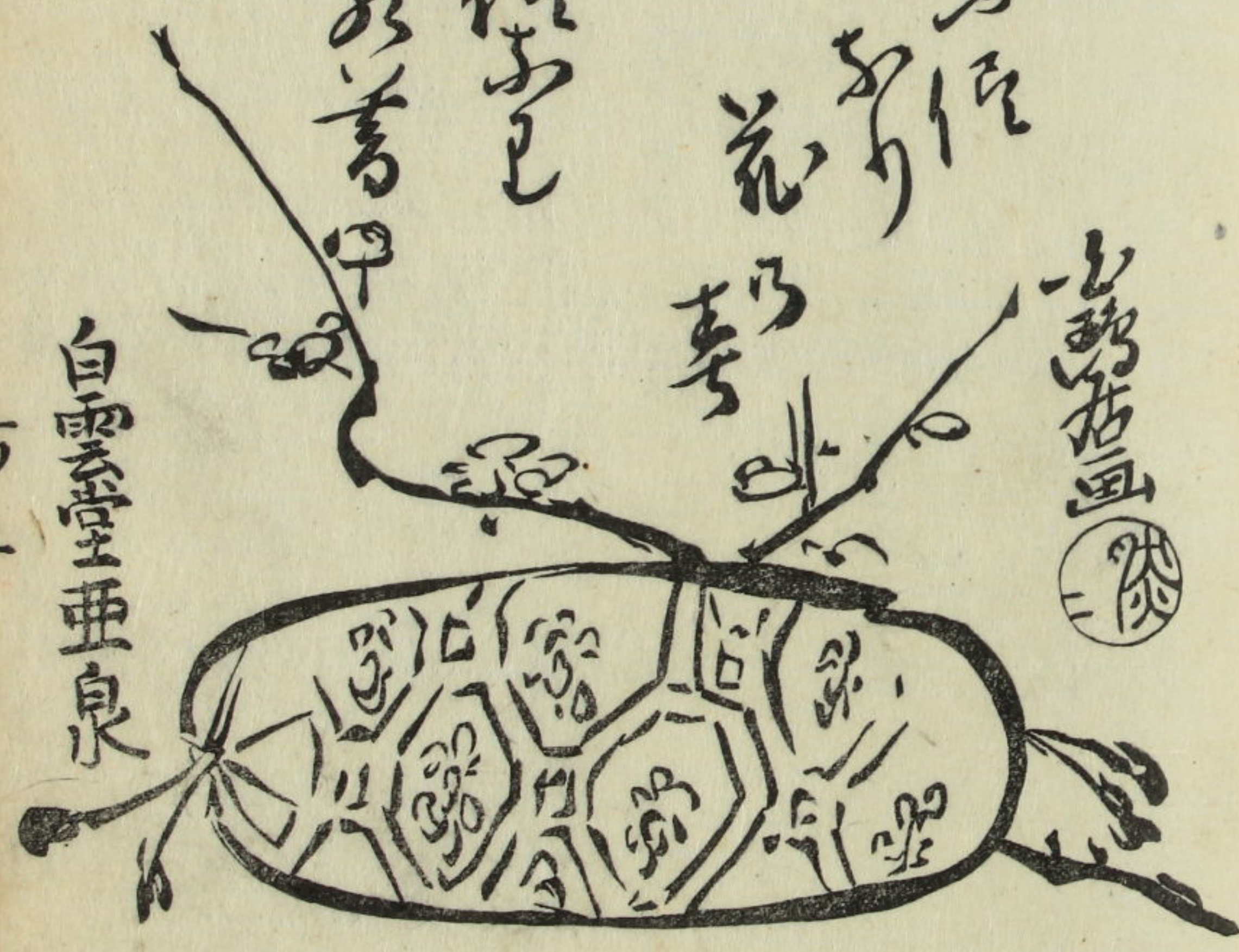
毎如善甲

右兩章

白雲堂丑良

百三

七鶴居画



聖節

依りし黄方や梅能初惠久保 文中

筆尾

うへぬハ云見の部なり 全

正朔

元日付露 柏乃 筑波山 甫山

筆略

松植る竹もむつる 季の葉 全

歳旦

讃岐志度

ふ代世多 鏡面 了 初旦 百尺

蓬萊能林藤と思ふや門乃松 三枝

古峯

光陰の的音言 一 除却の鐘 全

昔季能と生や 自ら能花 巧る 百尺

正朔

後枝去尾

好能かき通く やきとけ 五山

海へ入る雲の能 一 孝は 一 也 條改

をいふ

人能衆る 鬼神毛 一 季の條 全

依深能の嬌 初歩 一 宵の法里 五山

歳旦

作川倉友

祇、齋

正由能傳書をひらく唐か水 亀印

筆尾

身之ぬ顔の遊心や年とすれ 全

歳旦

江戸

若くも笑息や告申ぬ日如坐 龜友

筆尾

帳面乃短くし即しき年如義 全

紀州熊野新宮連中

歳旦

ふき煙や静母のく非の春 射中
日の聲戸共如太郎能福喜丸 中焉

三十の春を追て

ゆきゆき〜能夜も是す 如旦 思中
手力権ふ〜 雨戸の如夷 来道

正二の春をむくて

止鶴改

村もあ〜 杉新屋し 共如夷 萩岡

年暮

改り分り母も名も外外——手手如如市
燦燦掃掃也也以以了了進進々々破破種種楯楯 萩岡
馬馬と相相舌舌を及及つつに手手多多の如如 來道
芥芥如如松松く春春待待顔顔やと一一語語 中中号号
一一年年乃乃極極る富富貴貴か南南 射中

歳旦

越前大楚

清健全

皆人如顔を申とま居居獲獲操操嫌嫌 不妖

年暮

歩歩を急急くやうやうに善善ゆくゆくと年年初初 全

江州大津連中

歳旦

聊聊努努る

昔昔のむきむき福福を為為——之之乃乃如如 今井新古

年暮

川川連連ふ水水能能足足るるゆゆ師師先先人人 全

年暮

鐘鐘の江江少少——黄黄ふふ甲甲生生つつ少少 文車改文舍

年暮

葉葉笠笠子子着着るる如如ふふ以以多多くく私私 全

吉興

川原より子に引きよる子柳、幸々今

年暮

春要齋

五始

藤達忍水山乃常水居蘇お山

歳旦

伊賀名張

黄縹老翁やまをくは日中居藤梅燈 可柙

年尾

掛乞や里の中居る、赤の帳 全

伊賀上野連中

年旦

心に祈するまのり

徳聖菴

去川日くお伊勢と 因の春 有字

ひまのり

案油

ひや〜能〜後

全

す〜る日氣、好

家翁

梅月楼

市人や髪自代了宵如所至 相雨

人日

乃すも男如細言何し摘み葉 全

家止

如つきりとくく新葉あり位連続 可全

歳暮

膝拵了小袖常道に伊勢牧子 全

歳旦

待月菴

吾妻路も先東を明の春 如紫

富士を抱く起る袖鶴 蟬牙

降雨は直は柳子習ふ人 長立

峯尾

鶴の例あり

鶴哉帆く急乃漕中快航 如紫

追加

風雲齋

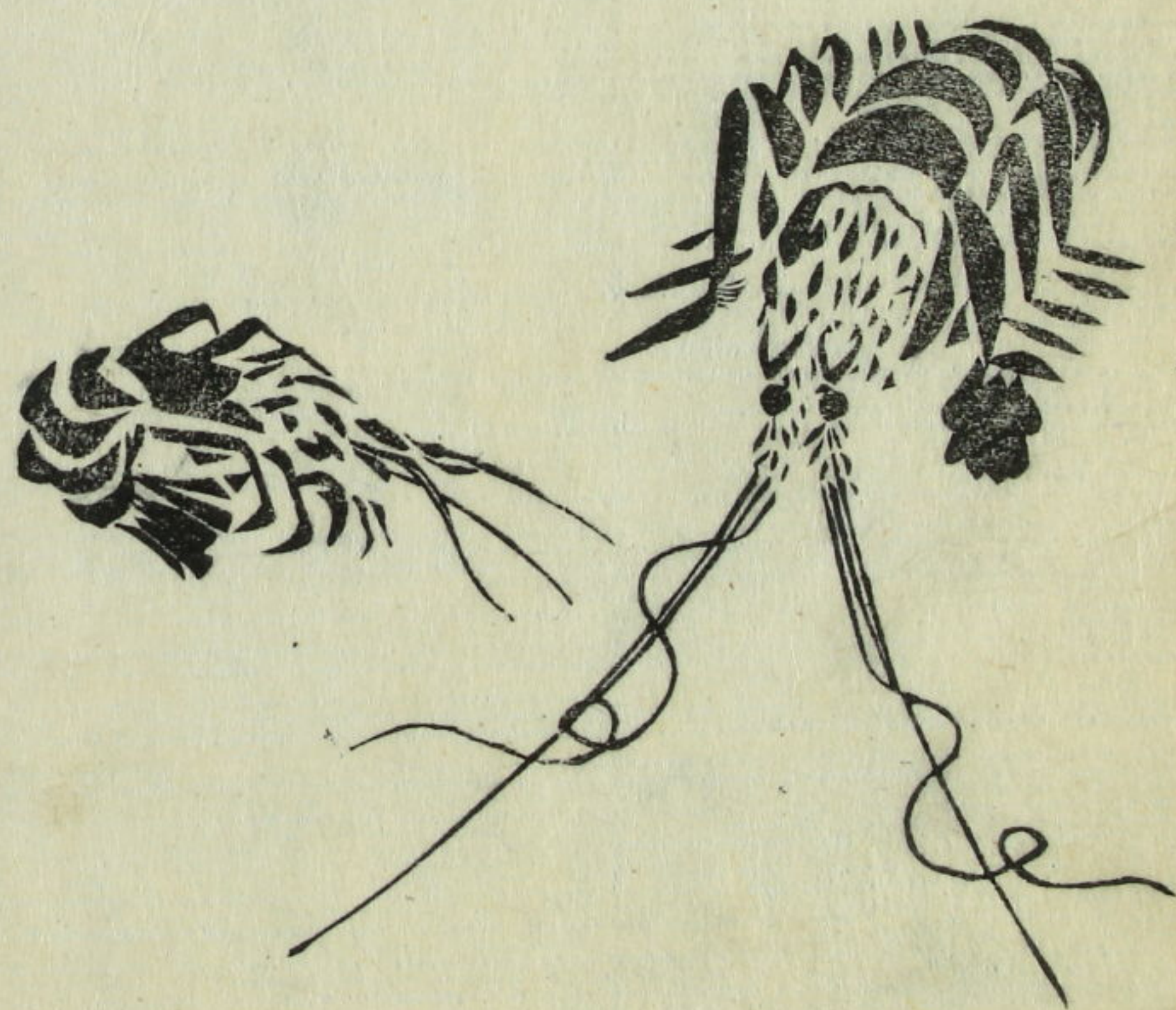
危哉長八人如一むら雀うさ 風狀

但馬關宮連中

歳旦

明神家の如き松竹部

雲畑令
一目雁行



海老も産んの家草葎の島 柳枝
のり舟春水濤へ羽を如く 雁行

冬之心

龍と関弓進も今と冬出まゆ 冬

追加

手紙の字うつらぬは 冬 状

歳旦

隣を空

如喜や皆庭訓如之々々々 不 混

きい不

掃より蝶や〜の置土産 全

鶺鴒旦

名小照や富も如やく家の春 情華

喜乃海〜の八条 酒 富百

餅り言ひさむ柳如報〜 全

紫雲

手口すめぬもの笑ふ珠打の鐘 情華

去興

依ほ姫お〜の 全

改旦

伴松堂

初云如 初台其下 之 如 初 雁 州

手忘

高る年乃 逝る者少 幸口す 全

歳旦

角の白蛇の志し〜とねみ餅

英枝

年尾

伊勢海老も今も息を合々暮の市

乞

新事

何事出合

和比軒

水あ〜た〜と〜里トイ穂花トイ者 加遊

きん不

年の内をせし報り餅のあ 乞

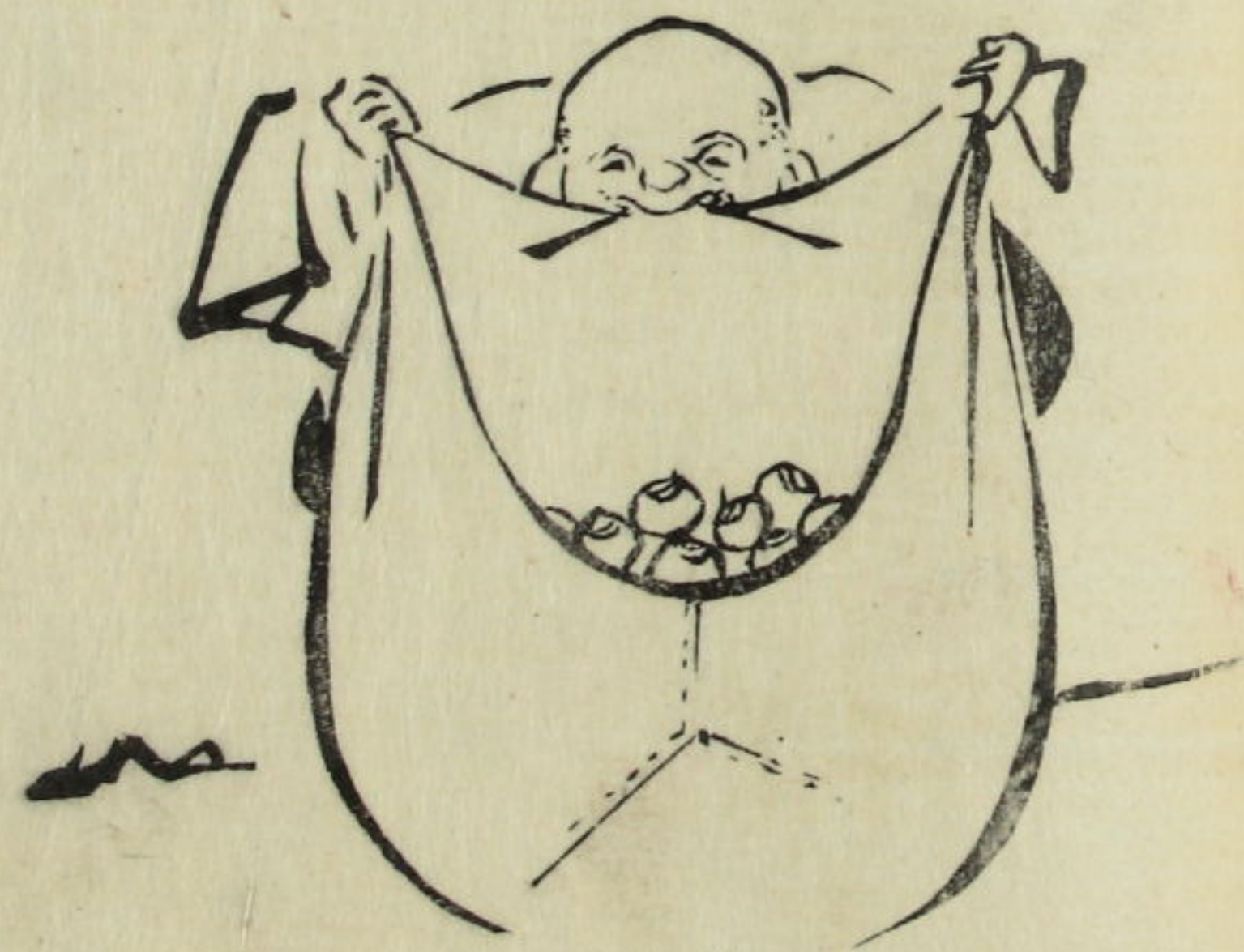
奥州

南部

田名部

連中

歳旦



雪の色を覚して今朝乃春あ〜
羽衣はや春の手附を鶯の聲

菊宮
波文

内松一遊外神も申走り 里之

新書目出交去を述ふ

あまのつらふ家以松ふや福来学 佳翠

神の影去や茶乃末の柔八舟ぬ 棹忠

月共の乙秤甘小戸一餅り松 賀用

今明く年と和る令冬の音 沙帽

詠旦

年毎の喜めつ—あ神りふか 秀月

新お勝進を富貴なむ 續 全

〜く〜さ志け〜ぬ枝は各唱て 全

華義

掛取戸一足あ—去色— 榮宮

節季以如板柱是より所とへき 彼文

者際もさめぬ年なり餅の志 里之

餅花やうら花来ぬる音ふ嵐 佳翠

月花を巻おきせなり所—の神 梓太

船を叩く年如あうふか南 新帽

さつ〜の物と貴のや—の布 秀月

歳旦

於奥州南部田名部越年

日如中や其水大門より入製 紙隔

歳暮

南部より十二月小節水に和太
水佳例よりて元日を大勢
るるるるる

大勢のちとりーと海に高き山 五

日向

清武

連中



歳旦

おとろけ虫と稱するを遠く
西桂銘

所系如去甲行多海言あふら 茨津丸

歳旦

枝分州乃多て
久一 松如表

年号

明く来る福来を
まつや年仕廻

去興

表柳を風の
事了や乱は髪

去三章

漢水菴似終



歳旦

言 言 下モ 去 掛ふ 御夢の南 荳苗

春風齋

波中産む橋の原乃 土川 旭 文工

梅尺菴

書抄の草の 祥なり 智慧如海 陣宰

挂泉堂

年尾

ゆく事の板と 鶴を中 昭る 彦苗

白く年如日 柳さる 節季如 文工

大馬といふ山を思ふに海口のまき 陳寧

昭年

蟻掃了梅を雪杖の玉 等 次津丸

同國鉄肥連中

歳旦

今一忘に交る時の 居 秋可堂 荻舟

去程に松林をわし甲斐の海老 徑雨 重游志

世を笑ふ菴も目しを川日影 一方 林有桂

澄む風減きぬ中や如歩り 齋 室鳥 春仙菴

新ふくやゆせん 駒如や運へ 其橋 里水亭

積の洞や子代乃矢叫ひ引け 兎 魯耕 千地窩

鶉啼くあやあやあや 妙手如 琴卜 松心亭

改年や父母の禮義はから年侯口新知州
たる乃乃そそきと告る八亭江兼奇富水

第拾

吾子とつふ多秋見をりまの罪 蒼舟
り年を忘き 明日家宜見々か 徑百
まつま——花のまけし海松の陸 一方
松翠流るゆやや——乃音 宜舟

年のおや花を降し如一重垣 其橋
四結海徳積くく繁多うく船 春耕
父母の志と結文 你——事流し 珍ト
お欠り多や春を都乃言笑し ち妙
まをいふ哉きぬくくりす小酒 富水

冬三

西も若は世居み取と空行し 九州

打て手の考へあるはぬ事さう甫 富永
 空に咲梅落り骨了津と鯨 珍ト
 山と山おふしやう 時ふおれ 空香
 昔も如時とふらりさきさぬ 一方
 書信さ水う一長言さけり 蒼舟

追加

西桂館

両袖う羽つらひとせむ 富永
 津丸

伊勢津連中

歳旦 題松竹梅



雲

幾千代も葉つる松の勝り哉 李朝

言葉のそとをあたき書物 李橋

離るりハハ巾着と揚さ世々 無名

竹

舟の陰をうなる日のさめぬ 李橋

天いくらく工若雲舟の葉 無名

雪は産より人の心なると
李朝

梅

一輪の梅や袖日花蘭を待
年云

くふくふとさとりてあそぶ
李朝

春より火麩斗そ幕の鯉の
李朝

歳暮 吾魁 年終市

どうありとさけふおも年終市
無量

鈴舟やそふ流きとそ終市
李朝

賞はるそ寶の船をそ終市
李朝

伊勢冷磨那
下久保村連中

歳旦

あ氷や舟の

影のうらみ

茶葉

引舟や浪舞

届く年終市

波中齋 浮洲



歳旦

笑拵

福寿草

なり

雑煮

膳

菜軸

入りおくり
とるそ年おは

正雲新服新



百十八

鶏旦

ふ感の年の

仲る入し

改まるるや

老の筆を

辛尾

既三十九の年

改まるるや

なりとれ

改まるるや

実るり除夜の境

仙堂閣 露晶



三重郡山田村佐状齋機石

勝 新 繩の
神の 花
辛 焼
流 石
年の 跡や
餅
むら

歳旦



元旦

初日か月よ
後の名もあはと
年末
昔季候ハと
流連の早潔也

右

半盞を飲之



旦

歳旦

山田村

年の凍身より毎つ 鶴の息 竹竜

同所

清海老の多穂となすや かつり縄 巴光

白子

作向はいよく青し 今胡の巻 好木

同所

ほき縄や向又勝るも 雲出徳 子舟

同所

遠業と守るゝおろや 晴輪髪 遠中

初空の星新く 明よりり 龍翅

川曲郡肥田村

年尾

蒸餅の湯垂や 露の衣より 何竜

行年の垂と産なる 餅の花 巴光

年終り花松賣も 常なるに 好木

星の教灯也 隆聖の祐路山 子舟

一歩も痛ん年終尾の長く〜 遠中
橙より光り残して年暮ぬ 新翅

歳旦

松葉園

言の葉の兄ともなやと胡の梅 雲和
年軸

自削る隙さひ〜 雪かこり 今

伊勢能戸連中

歳旦

初空そ

清く〜 あり

先姑を

菜葉

志き〜と〜

あや年つ〜

右 両章

巴雲齋庵御



鶏旦

元旦也

七福神の

一人

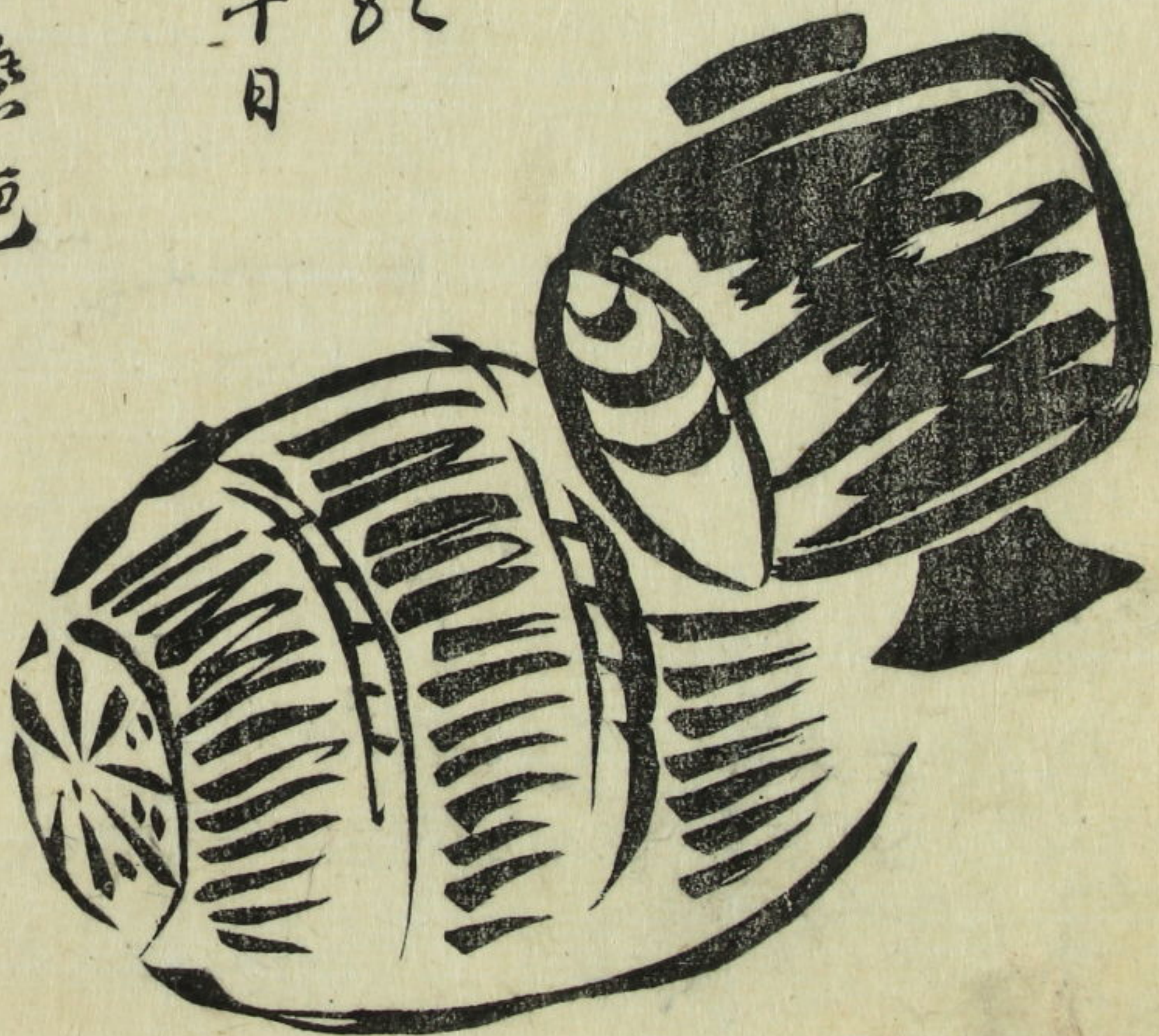
年尾

来り年を免と歌

日 新也六三十日

右

信風全 燕 厄



百三十二

歳旦

いせ日向今年そ申結と一男

石紫

兼葎

靴箱も達戸も浮つ年結尻

全

歳旦

お言ふすはる早踏や門の松

柳石

兼葎

水菜屋の春屋尔をぬる也様拂込

全



改旦

鶴の声空の西や

兼葭

あけの喜

首分正月三日わと

年終尾を丸めてはゆふゆふと

右あき茶伊勢林崎潜水を現毫

菰前福因

歳旦

代の冬言舞の

貢や花の喜

書歳

白雪小耳流ひり

除夜結鐘

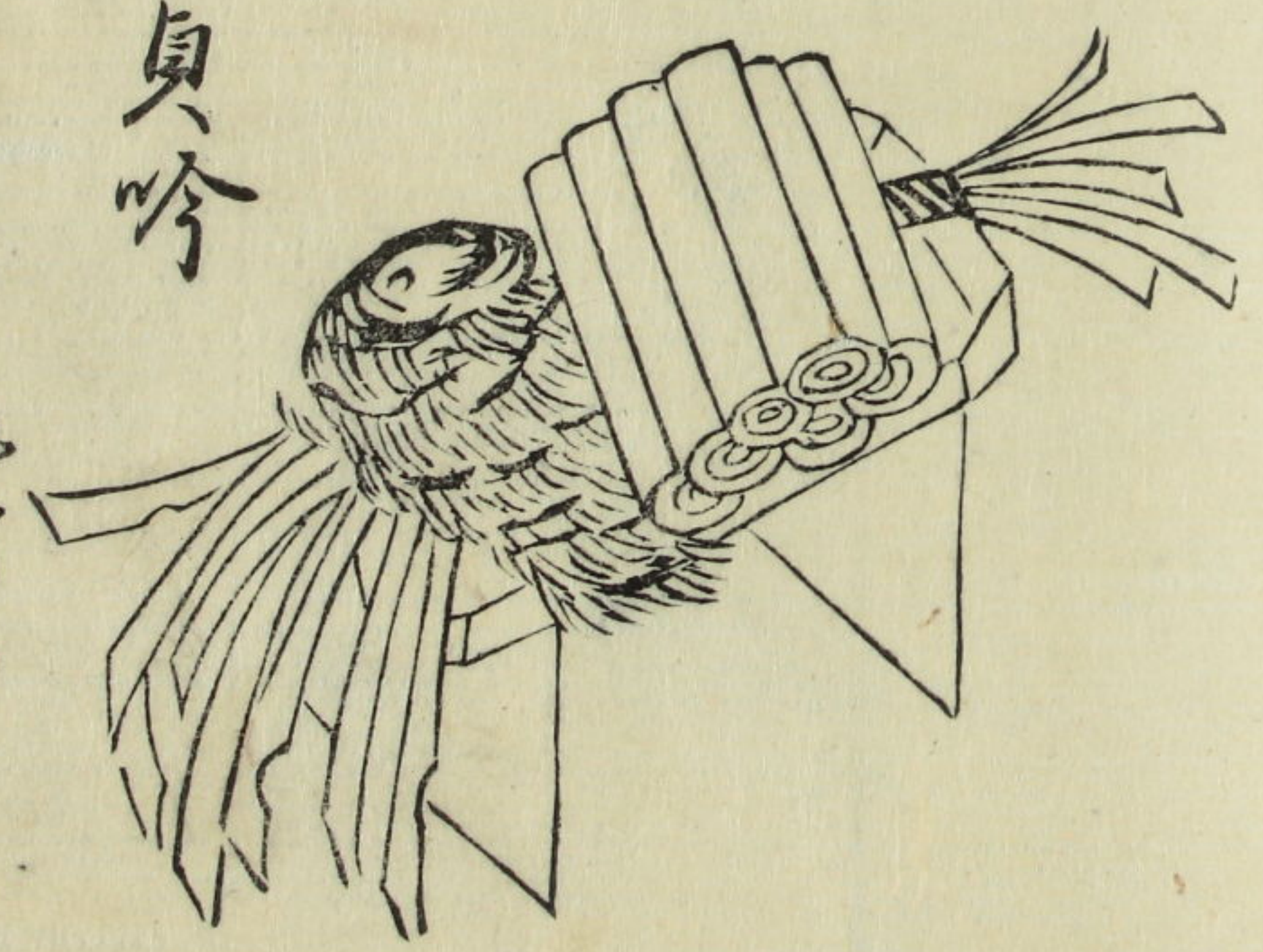
右あき茶竹遊亭貞吟

追加首分

何可やる西海舟の厄拂ひ

風雲高

風状



経すもろありて

且 新しき日面もあやふか花
昔 年の開越り深きや寶船

深林全
一枚

且 朗る日やあ御も初歩行
昔 乃年ハあまこつーのあまこ

新心軒
故夕

且 暮を境見もや難茨は汝下写
暮 静の陰ハ白くあも陰映の闇

散涼全
南水

嘉加解

いと丹年あ幸お
申あ〜〜〜

菟あ毎柔

堅固
さか〜この合せ境やかさり解

其語

年抄

年抄梅柳あ喜あ厄拂い

全



伊勢龜山連中

歳旦

海山も懐くけく家去つ日か
君一
くく如世界や層わけ乃矣
花輪
浪四浦の代物原一福来子
珂雪

歳旦

流る浪も貴船の降る年か如
花輪
園も民も笑ふこ越喜や年乃算
珂雪
堀りたる室がりや如吾智川
君一

石州

河本

連中

歳旦



成妻舎

名自を向くこころ甲幼日新志程

本年乃少も海を若水 洗意

新く以枝をのり猫きつと見く 桂車

其二

宮内省

春を乞ふとあつちを乞ふとつと
桂車
尻を踏むはくち糸乃香
志程
名も高き柳と香し文里へ
洗意

其二

渡里

花籠齋

筆経る毛ヤツチヤ骨あし若くは
洗意
蓮葉山は信連と下り鷹
桂車
砂如女も春の野へ出筆は
志程

改旦

梅を乞ふ枝も芳し
神田
菊
酒之し
おし乃家時代の神且
箱月
枝敷は十二句あり
亭里年如香
雨柳
老人毛稚子
おし乃家時代の神
林風
初鶴乃羽争きや
是手力雅
虚嵐

其心不

帳持、草紙乞ふ安寺大之十日
茶法

遊藝坊土用干草り年々す水 雨柳

新し起事取為中々し急進 釣月

擡皮以事立形し一戸除却の積 桂車

来り事始後し守如里中し男 林風

来り申みりし是くハ女未ら南 虚鼠

見おろし是花の宿何れ年乃板 志程

鶯旦

海里

玉露本

華子代の例を引し一ハ松之能 桃枝

果翁

若くして見の人善名不了衣配百 流定

瞻禮や流るる中乃波能音 飛枝

首季

春水に流代戸ら中々年能花 志士

年尾

聖のりは孫生程何れ小吟日 台

甫年

因原

細着や自言其乃意目之 志山

奉廻

来るまはかお物言戸一 年り赤 志山

歳旦

十五内

如又亭

付ら子に巧やふん 唐様乃固 如甚

奉答

於如 觸ハ鬼乃 粟山子之配 乞

元止

如又亭

如休令

春平の又中 戴つ 草ちしめ 飛蓬

梅も醒ししめ 子於此の 破 志経

橋木の芽童を制し 己り思て 柱存

奉答

煤拂ひ音より 引へ糸 帯もろか 志経

歳旦

潮

稚子を唐様や 呼出さるるの 志 経年

年軸

自けりし中 幸れ人なり 煤拂ひ 乞

三朝

都賀

又心より 老く月あつた 可遊

年尾

あまの仕組よりあまのまのすめ 可遊

三元

あまの山の園に満けり 神の影 長若 吞舟

年指

一幸の灘を舟のやまのふりぬ



石州
三原
連中



歳旦

盈仲舎

一板五十日大極の妙如家 一葦

あまのふ人如之居 甲 芥さくろり 五音寄 五雨

遠葉白雲去春乃 神の心 平田老人 常意

明
洛書堂
龜文

表
清迥菴
玉砂

石
虎牙室
白石

三
日
蒼
乃
春
戸
年
如
松
楚
狀

筆末

筆
迹
了
砂
之
一
年
如
松
之
海
楚
狀

乃
了
春
也
一
眼
了
個
子
多
如
布
五
句

心
の
と
も
世
と
か
一
年
や
大
之
也
筆
意

賣
る
く
も
買
ひ
も
賣
り
か
け
り
物
龜
文

買
る
も
く
も
買
ひ
も
賣
り
か
け
り
物
玉
砂

雲
の
波
東
風
待
自
々
非
乃
梅
不
玉

秘傳
此乃今
年
如
松
之
海
楚
狀

不
可
も
な
く
可
も
な
く
終
一
筆

書興

海
原
甲
い
そ
連
形
々
々
松
の
花
五
句

神冬末の八日爰に梅一春

御句

香の也雪の指乃重信名

以負一交音付子咲の梅一葦

若草の袖了をいふ家語舞之 總代

土忌取まは唇子不化 文波

松へし月白房了ら里松の形也 於状

山も音れ物責如序 志程

下畧

石州市山連中



七種を七人の連中五種を半旦也

寄新白旦

予々四十の初雪を祝一松

内松毛眉新ふし初雪うた 文波

寄御形旦

去やを身もやまに実なる事

詞洞

寄芥也

手毎よあき相芥のふ接う香

柳翁

寄薺也

非代より地八之味後のせりあし

飲翁

寄耳名茶也

指也や心ささるるちの耳

李溪

寄鈴菜州旦

喜助とやまにうもむや鈴菜指

文啓

寄佛之堂也

めりよ非和光回堂佛如堂

一瓢

七福神を採歌りし

寄翁名茶也

寄魚取書也

魚類らるるやあはすもやのふり 一瓢

寄昆沙内善

昆沙内乃形を世界の厄拂ひと云

寄大徳善

日の教は打杖も坊——火之十の 李暎

寄辨大天善

燦掃——空てはな——辨大乙 飲寄

寄善き人善

口盤毛善餅りなり 善老人 柳急

寄市袋善

日毛月如帯——満る年冬取ぬ 酒洞

寄福祿来暮

善と年佳階子あり 福祿来 文波

ささし

川戸

依保好の善き人 善の駒 行餘

ささし

善き善と祝 善る 樂善く祝 全

歳旦

里々少々如き色下 門乃松 貞志

多如しよあまき目出 五代の春 釣糸

乙地の新田きなり ちつと水出 亭々

春興

春日はあまき ぬき水 ちん 中以 遊晒

冬水

茶のわす山吹の流る 春を水き 冬

奉尾

春果報を待たぬ 待たぬ 春々

餅つき了 柳乃枝了 春々 貞志

春水の流る 春の流る 流る 流る

歳旦

丹波園部

白雲令

春々 春々 春々 春々 風歌

春水

妙く春水 柳乃枝 餅細く 春

藤子ゆりて
あそびやまに止め

喜興

伊勢枝川

陣あゝまゝ積りぬ柳か南楚流

元旦

讃州九亀

草雨亭

まゆりのるゝ神り戸宿の栄へ晴夏

年尾

まゆりのるゝ多極如香 全

伊豫

三津濱

連中

歳旦

園庭井

何らまはるゝ新戸鳥もかろよ智 含芽

年梢

力おし自も呼先入山の眉 全



歳旦

家宿の

あけまし

ますや

今朝の爽

辛梢

ふと来たか

ふちまの波

弥鳴



百三十七

歳旦

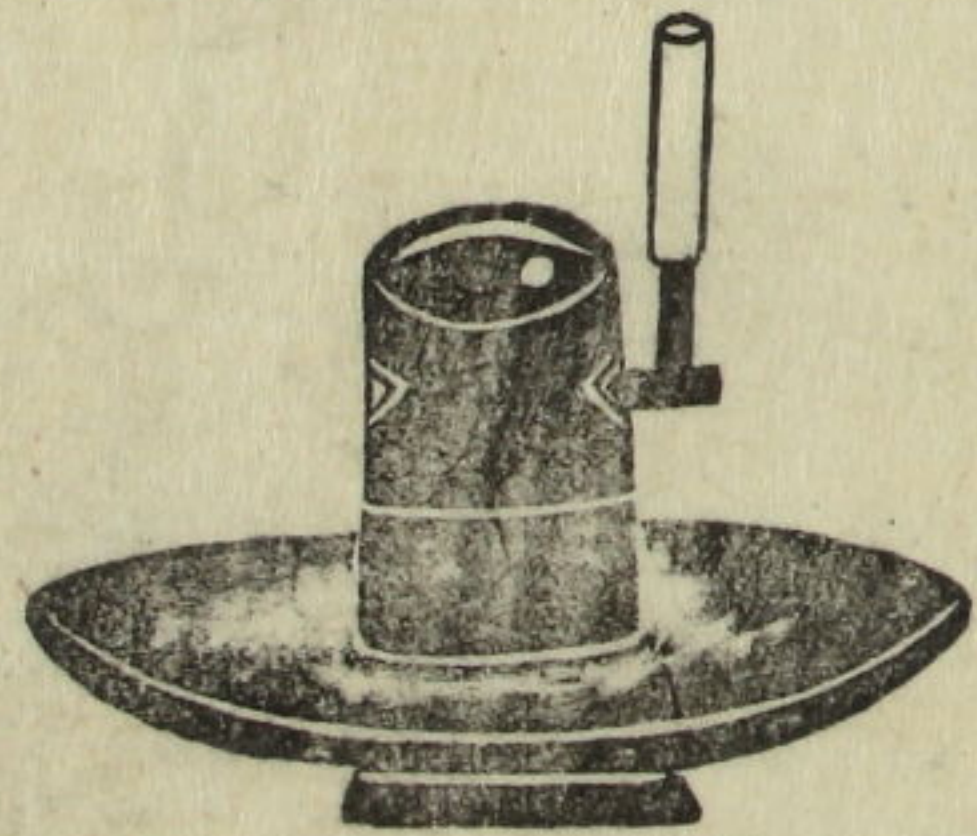
車海老

去降の擣りめを借る海老

金芳

蓬菜やつる擣り車海老

固丈



茶番

白

茶白くも眠る茶の香

因文

之白くも果敢をまら中宵餅

香芳

百三十八

歳旦

古三伴

新堂中旭如中包富士能山 羅狂
大予中先年始多日未上里 未教
第子代の相与去実始如日新 一之

年暮

買りてゝ家乃費了る己舟 羅狂
考さや年を積むる如く如 一之
大年や先年を待たし任由 未教

伊豫松山

竹園齋

歳旦 鷺月

秋言一兩年
家善法即一又
此佛の御恵心
去年降す
知然一徳く一き
去を彩毫了
言く

春のふり毛

宴加戸重

家如喜



年尾

ふりし指打譜

ふりし富士踏月

新巻を喰しし了

内相と古し見へる位居る

風状

節分

振る多由了福行の鬼乃匹

日新

文林堂



歳旦

豫州三津濱

吳竹菴

精氣もたて物に御代乃春卜芽

歳暮

法物をまてハ毒なりきぬ配全

聖節

横州金毘羅

八一

齋

うすぬをたろり磨きぬ餅柱山

口心不

一方は基を起しハ葉しむる

子如くまきしき

今葉中し起年乃指す全

伊豫宇和島連中

歳旦

大工町小段

春海全

法橋

騎雀

云物や根乃春まへ 波 静
世をゆつる系乃安き谷積
志き桃をけり柳の中能く

七十の年晚

家系了るるくも事里丈二十日

全

正新

ひき綱を和くも如笑顔か

荏牛

年梢

集の弓法者あつ事夕如苗 全

年尾

年毛宿るるく 疎冷の大二十日 九時白



華香

梅の香は配る所は能く以て亦

浪華

宇山

春日

芳野就田画を以て梨子乃花見の

全

春日

夷敷中起きぬ所は乃玉の

佳方

春日

多の山にぬ筑面の峯は空さぬ

貞亮

日不

歳暮

福のし何しし乃春を乃の鯛

富天

石州銀山連中

歳旦

清浄の六根是是之為如き

福向氏

春子

南華の換名は人福事

鹽谷氏

思明

去年の聊の故際何て以て空の海を

より引之を徳と之朝を

より引之を徳と之朝を

一枝の去年乃花をさくりぬ

春子

歳旦

濱原村

松壽寺

惑はくはく神り戸 神宮の 古隔

を以て

り年如休を 許中 大二十日 全

全

志へまふなりし 年如休を惜し 息明

明治七年もこの節に
あひぬぎし

葉のや 歌仙乃 灘へまふ身 杏子

阿州徳島連中

歳旦

齋年眉山の麓へ居たりし
珍きまきとて



亭々

ふし〜と山の 葉色戸 四方如春 百丈

古第

世の波をるむ 如く 越のあうら 全

全

依馬姫の 横顔 久の 此一 秋 白飛

春興

谷も 鼓をうつ 戸 梅如 全

歳旦

大ゆくりん爰毛

かゝる毛松如風

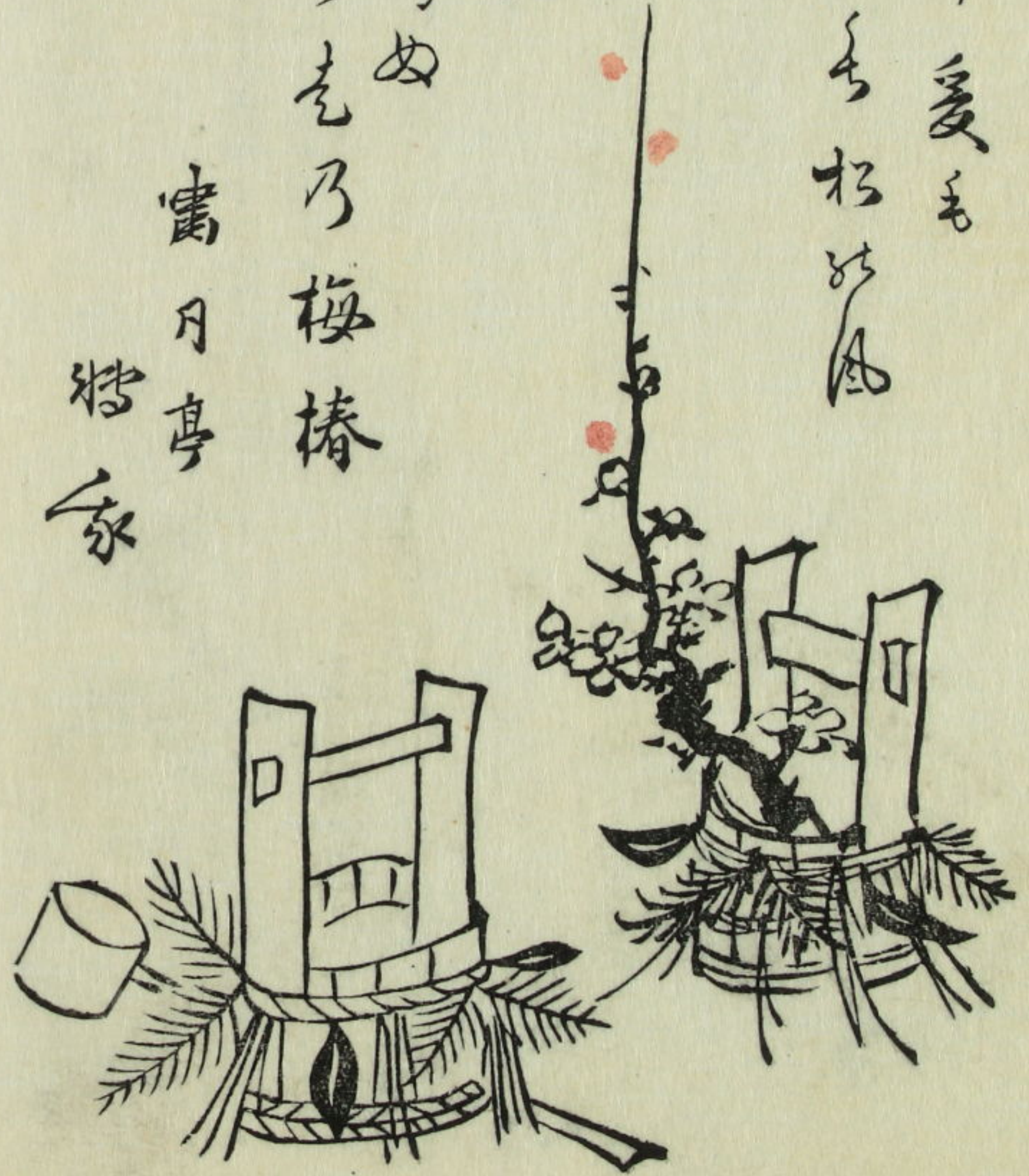
兼壽

思ふこと是る女

沙衣乃梅椿

露月亭

猪家



改旦

松板吉誠子

頭々ぬ初日之女

兼壽

流石の静

里多登日

少し萩、か

柳風亭

瓶枝



歳旦

玉打戸
阿々如ら
氣世如
ふとこ
手

歳首

自にハ
祇園
海一除
お乃隆

文集



歳首

後々砂如か減ア
乙代の春
春町
寛より喜来る喜乃
をり口能
吳嶺

歳軸

夫々代の喜待り不ア
乙の足
乙
治如喜
梅月毛多や
除おの糸
吉所

鶏旦

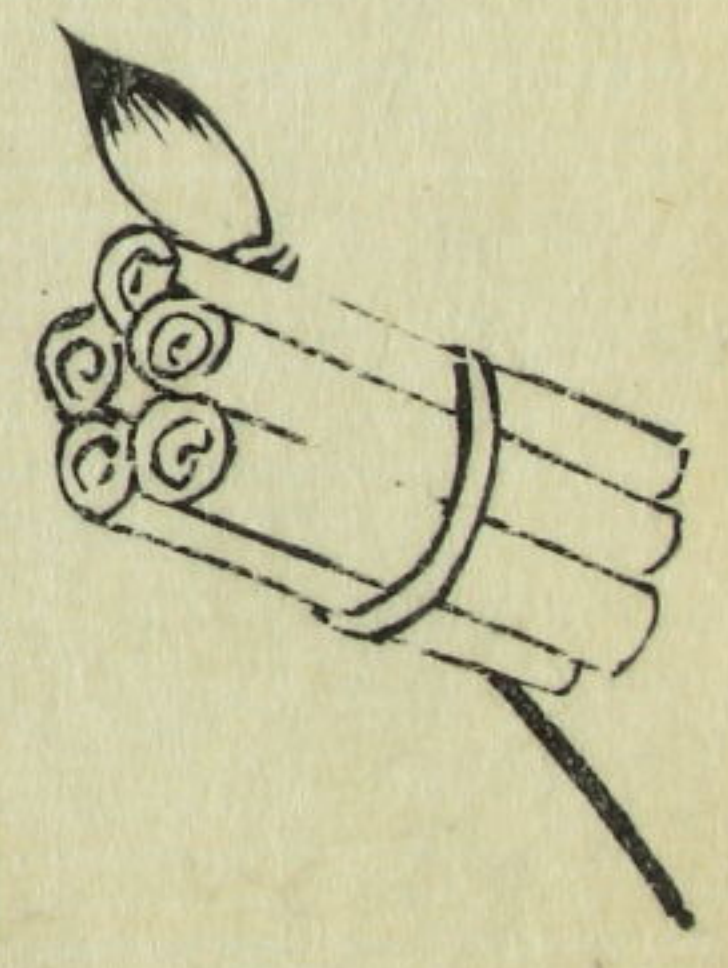
南紀

江青嶺

騎御中
黄多
以
吟
乙
御代の春
楮林

出羽秋田久保田連中

歳旦



自茲や松かへしを草けし絶 五明
 吹か猿らまきくゆぢんら初は春 花來
 日のた乃悪魔拂ふア云の物 騎雲
 甚くくをむり門の物と并 砂明
 光陰の矢走り筆おしと紙の書 和翠
 十二月ツキえくく日を 妻如家 里石

中書

りやしぬ持を持より子持全 里石
 心地や空書も乃は年の算 和翠
 西静 東へりくくしとすの 騎雲
 似城の下結くふらん年の板 砂明
 ふく手紙細を打とやまの淵 花來
 聖書こころ今と師是能かき里書 五明

歳旦

備前岳山

鶴青館

元日や床の福壽乃文字破り 躬連

昼をも夜を愛客のま川日か 梅衣

年抽

立松を曳や福のしね年のすれ 企

しのする舟のなりしの座 躬連

鶴旦

讃州九龜

休華奇

目出のまを鶴鶴のしの中のちの上 柴馬

書筆

聖以のまの如の系のまのちのもの燥の拂の心 台

歳旦

讃州宇足津

井幹堂

依條始の森すの見のさの福の壽の亭 梧貞

台

讃岐富士山の下

翠錦堂

試の筆のみの本の乃 共の言の如の存 知里

年尾

待のまの結のらの梅ののの柳のをの年の遊の心 台

芝蔴の矢取姿の了の節の季のみ 梧貞

歳旦

紀伊日言小松家
聴雨奇

まつ春ア聲へハ忍び何あゝら
歌留

年梢

ひきまゝ毛いも々
全

改旦

讃州観音寺浦
老松亭

筆文字の中へ司の高きうか
月扇

年尾

此算を素く不ア年口す
全

歳旦

丹後川口志高

あまももや
あまもも酸
梅乃屯
如猿

年軸

史蹟如的
全

去癸未の春松尾をゆく中國の神社佛國礼拝一
名所古蹟見物して五月申迄由りぬ
あゝまゝ

花乃宿水庭
如猿

とびりて出
全

同行十三人
鬘男
如猿

雞旦

丹後岡田油里

何りし如世しあへんをの志 淀車

た川勢や眉如鼓のを乞ふ 遅雪

年尾

世り好き事とを樂し事なき 乞

家友古此梅、枝を常春の枝 浣衣

元旦

丹後河守

あつとあつ日や依ほほ能袖笑顔 暉溪

寄善

印と梓し向家能思何り餅の共 全

試毫

伊豫大洲

橙了杉の向へ 何事 如 星 雁洲

雪之如

見愛くし山と初雪の雪の如 乞

年杪

何年の道筋ふし 米洗ひ 全

歳旦

但馬出石

勝美

蓬茸草

是古和國の

尚菑金

全

級

男如子抽

明の

同所

有橋



葉

羽長もやうな

やの仕廻り

勝美

長生

何事は

者橋



歳旦

石州大森

風和堂

手の花離きく時——初春の世 紙船

せしほ

用ふと國のこゝ路とふすり冷 全

改旦

江州下之郷

梅筑堂

椒柏酒や太郎冠者呼ぶ大名尊 峯川

除夕

江の橋の金さへつるを年如算 全

歳旦

甲州本郷

土形や之能御代のすゝや杉の春 柳水

年暮

投入し家の笑息す——除夜如床 全

履端

江州土山

臥雲齋

まろふ水や神々佛を如 餅 太夢

臘底

似城すまの柔味けり 砂走堂 全



さびし

但馬七味大谷

若角

照りかへ梅如

あつ海乃初り

日の本

焼く

家へ何あは

春毒一

歳旦

乳のふ

乳のふ

御代

早暮

焼掃の家ア瑠珀の

後仕舞

去興

邯鄲乃味乃春如臂あはら

去之章 但馬七味大谷

三射園

蘆江



改旦

ハ 燈籠火の架

古し

多勢如春

奉 廻

奉 栲の礫を

うつりて乃

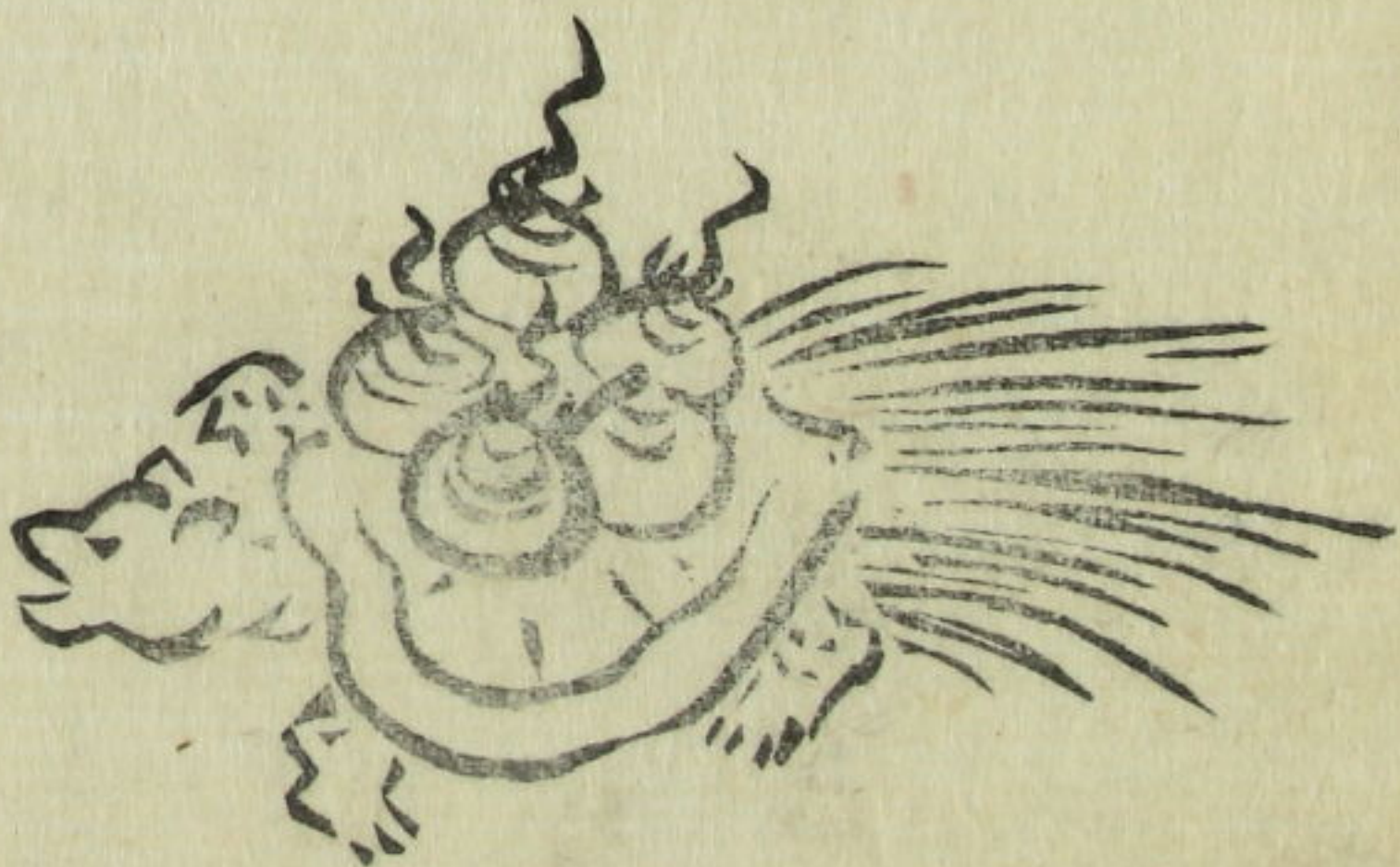
測

右 両章

任了七味福岡

如桂舎路習改

化 口



但馬村 密連中

歳 旦

明戸や 依子廣一

去如堂

清流舎

澄 志

唐後の 垢洗ハ

神子

芽芦舎

隣 恥

子古む 柳毛

乃禮象

由隣在 梅 枝

有ぬ代如之幅

對 巾 之 乃 躬 孫 糸

年 尾



嬉—中家雪も少く今年一秋
蝶採中いかにあつた乃草芥
逢牛も淀の川流中冬の灘
去を待たず如くありと少極分
年の板城まや六十七十也
孫糸

あのみ
偏月十五宵梅
雪のつらむくふれと 丹波龜山
ちや咲の梅を自採のむつ乃花
梨花

歳旦 紀州安樂川 青松軒
先祝人からあつた鬼をさす物
智々ぬ身にもつる鶴の影
丁と六のまて見居る見残る雪

年軸
信心より指し觸れかいらる
春興
登—仙 春 意—馬
全

五十五

正朔

南紀黑江

雲珠菴

梅と兄はと姉なり

福壽州

連城

柳

去白くぬけぬ系候柳の香

全

果旦

丹波上林

波多瑩氏

若くするは誰の心ひつ今も如夷

露香

匡尾

木の更く形過る家大三十日

全

去興

田楽く梅の香は二軒屋

全

歳旦

筑後久留米

幸小近の甚き事

洒落齋

遠き来未のころを老の勝

柿岡

冒草の名を替へ福葉

まゝの咲ぬ海棠の枝折れ

葉未

師を自とからぬ多の抽干の角

全

歳旦

江州麻生

氣の凍の先解かす初日柳

柳枝

除夜

行年の尾まきや鶴のまねごと

柳枝

えと

本の時といふは世に世に宿をたがふ事ハ
ちまひのたがひも天宮異多むを炭の
増よもいりん

伊豫波止濱

炭の形も師仲間の上はなる

玉函

歳旦

回所

五十鈴川渡り初より初日脚

照石

歳旦

雲も戸を叩く

二月や三の朝

伊豫波止濱

蟬風

歳旦

去年の暮もくさくさ
君命とさるりまじりしを
思ひ出でて竊小試等ホ
ゆの〜侍

紀勢粉川

山よりも言さめらみや明の暮

柳洲



年梢

後小舟の腫とあろしき流石 柳洲

茅屋喜多

花さくらやは叢の蒼中ても 全



鷗且

紀州粉川

新月齋



水底もからや峯るも明窓喜 里外

菜晚

花より方ハ叔より年の坂 全

歳且



江戸 晚英全

立烏帽子猿小若せり花言始 徳沾

菜暮

年の暮あ人も寝と人とも 全

甚無

ひめりあや少し酒もろろり 全

歳旦

江戸

掛鞆のるや思ふく三首姑喜

雷尅

全

啼子鳥鳩や鳥や三の姑朝

泊馬

兼尾

捧船の昆布お巻く師をい

高亮

幸りとい吾妻おとや部鳥

泊了

春無

海老の子姑海音ふたりも也姑喜

高亮

作別席田連中

歳旦



松竹の齡も長く三つ見姑出

山亭

雲形小積重ぬりのよ年の花

閑耕

短きとくくえんたり一胡日山

結友

年そけは待好一年の神日新

紅友

神垣の明とく好く、花中春

好風

百廿八

花嫁の美点つくりぬ妙あり

少年

若帖

おとこも小若くは月言葉葉の那

雪玄

家この常花室や門かざり

蘭御

辛尾

光陰の奥の院を大三十日

全

る戸回士や齋齋か一の辛仕也

雪玄

車かとはまきまわつとくお誓

若帖

年の際のはまわつとくお誓

好風

辛おとこも小若くは月言葉葉の那

紅友

年の離れんと辛もや寶あり

若友

貴人あり痛廣きとくお誓

閑耕

寶ありお誓とくお誓大三十日

山亭

歳旦

三友齋

相違おし上和下膳のちり日教

不省

辛尾

餅つとくや冥陰陽の二とら

全

まのふ今自さ十七八のやうかひ
はりし親しき友より幼老の
賀素とほり縁おまじつたりと
おほくとのよ

三友齋

氣いやけくろも腰や弓さめ

幼老賀

吾こは女暗と

老松の仲らけおや若きなり

独友

老幼の居けよふ葉そ百子鳥

棠卿

四十二とく声いさまや百子鳥

知友

老そめそ中とせのあや若きなり

好風

感いけ小身隈もこころそく免

警玄

老老の居けよふ幼より梅の花

閑耕

中武つ角をいりそ右の謝と

三友ハ十八の野老も鬼

不省

三友齋おめ今年老の
たしめるなり一向とく水と

つる伯父お成まうりかそ花は兒

風状

豫州替地連中

聖節

居家も喜光の
備なげきと

蝶々居



竹の尾や枯れも見在ぬと川日新

假犯

水鏡とけり墨りや夕さの曇

糸風

うづり香れ始ちる人——居藤袋

不偏

このふとこいこそ新——玉如曇

危舟

夕言や是と家内の掃並——

洗我

年抄

蝶掃や造へりとの若白髪

洗家

さぬくハ詩書もあり年比蘭

糸風

年波小由りのちや——水車

危舟

かこ身も修よ並少や年忘也

不偏

蝶々居小こめりて

岡居の年も書ぬと

行年と見えうら山のとも掃る

蝶々居



百六十一

歳旦

豫州小田

雪とけそよふも
初年冰虎喉

果善

果束のあつや春の波の口
今

改旦

石州波積

堂りて閑くも若く一年は花
素雲
日も月も年も閑くや花のま
花卿
年暮

餅つきの聲も妙や年けとま
花卿
福祚の年け後の宝船
素雲

百六十二

鷓 旦

但る糸井

若水やぬきとふふ葉あつとつと物

如塔

辛尾

六年ハ世のかつらりの樂屋ハ礼

全

歳旦

但馬出石

彩綿全

八雲つらと酒新や物かま次

文龍

菜香

鶯の音ハ軒ありたりきつら船

全

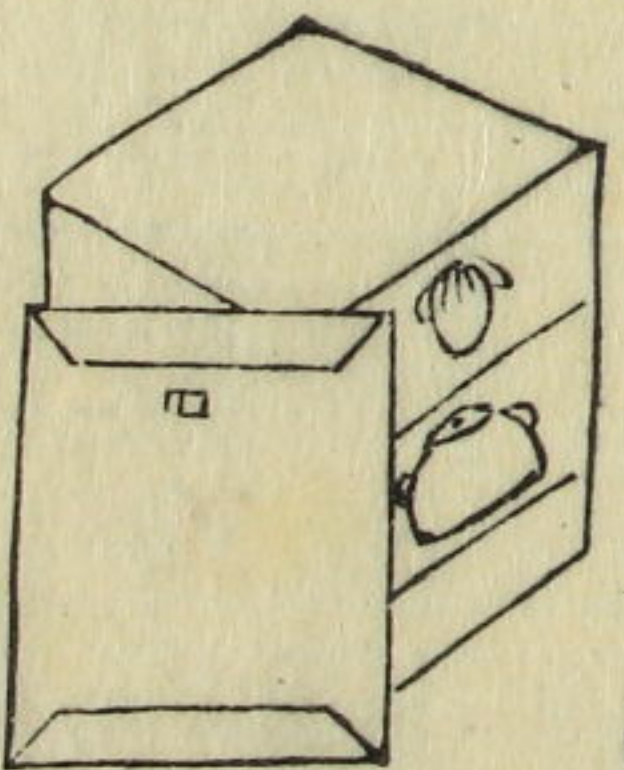
歳旦

奥州津輕江あ

たて物也福をい出も居る葉の葉

悟風

菜香



笑出と師をを知らぬ牡丹と物

全

音トク一員つくとも國の初日トク 釋 梅五

え日ハ皆他人トクのありりり 樵トク 宗何

老一人のかしらトク花忠春 祝山改 甚江

ふよトク祝事ありそ

あ方トク中福ハトク心正西 里橋

接接もトクあそく海と初日トク那 希山

今朝トクもあ風も訓波や花の甚 鈴子

ふの梅トク不トク律トクとトクひトク

滄浪改 去々全

梅トクの氣の目の水と知トクはトクあトクあトク 文急

晩年

あトクふトクいトク年を惜むのあトクろトク神 今來

花トクふトクけトクいトクあトク事トクまたトクつトクやトク年トクのトク苦 梅文

あトク石とトク事トクもトクあトクのトク見トクふトク 里橋

明日トクいトクあトク事トクといトクあトクんトク 大二十日 宗阿

積りてハ花を浴びん年ハ秋 春江

大仏や鼻の奥と蝶々ハ心 希山

一日ハ年の漆よ淡路嶋 青玉

思ふ心と山も音あり年ハ春 鈴年

夢と雲ふ人こそ旅ハ師走市 文急

書真

と依ハ向枝こそ春ハ猿田彦 里橋

七草の中ハ撰出ハ神音ハ那 文急

聖節

伊勢神戸

延年齋

挿て春音花の種なりと日新 花御

今

随陽令

因ふきの冬満富士の初日那 楚雁

年暮

意く足鶴ふも師走ハ那 花心

雲り初ハ足高山や夢ハ夢 楚雁



源之助
十三年

歳旦

伊勢若松若雲閣

云々の種とめらむやまつ日新

茂淵

榮善

河路澁おと紀付より年の浪

全

流年

浪華

七條のゆあま

青斗齋

さもあまの年も志りと惜う那

甲紫

歳旦

同所

東う咽袖ふたりまの目新

宮静

人日

雲隅翁

羅江

節唱小一奉

世一蘇之風

高判之句

午十二月より未十一月中之分
他月次形仙合爰句合等々分八別々一集出喜

後の意を借り——井戸者 讃州九龜 連中
如る河川に水に目を肥 再も肥

格ころ中——山系をハ 播州姫路 英人
之公海より四助海より 思ひぬ ぼり 破り——川を 京

控押の力に 出はる 志ぶきくら 流口

引さき ちの 尻子 之々月 伊豫宇和原
幕の 雲 陸乃 戸に 封を 付



色つゝぬとはねお 候 角 為波根西湖邊 疑之

父母在ま時を急ぐを意通る 播州姫路 伊丹城氏 飛女

浪乃唐け——伊勢の材木 石州小原 一葺

ふにく薫りも配新人の花 江州中山 鷺石

雪より月乃をききあけの家 京 是洞

禿とわ出世を遂ぐる起鞠 丹波大山 信 兔角

至毛板如くふ文乃見取

物凍くるり——女のさへき髪 石州井田 巴江

乳こおもひし出まは汐の増減 石州市山 文波

虫を 蜘蛛の目 石州市山 文波

下屋——舟のおき——昔の花 紀伊熊野郡 梅阜

出世——くまは名の出ぬ源左衛門 日向 思中

手を翳す——京 嵐待

心——えは款々——今如 石州小原 潜魚

けぬきくろくふ 石州川本
桂車

夜ぬのやハ刷毛好一ふや 日田大玉
楚江

道へあふくまの海内一 日田三系
楚江

徳出まの楽の宿をまきあり 石州小原
連中

上戸毛下戸好くまきる沖酒 紀伊熊野
来道

右三十三章 葵未日之加印

わくと浪中よ 犬くおとまり
老楽やいそを力く 築きり嵩 京 蟬牙

春の草のやむハ宿のまきりあり 伊豫宇和島
養生く引のハまき玉好焼 蘆牛

主のせむちを見越さぬき 掃 但馬出石
黄の宿の賞ハまきり好焼 連中

未世く朽ぬ 聖人の 袖 但馬八麻
おまき小刻く 笑國好味も知 文向

春の宿ハ一 不かつく 江戸
春を 深くく おまき麻の音 連中

秋の口くぬ 富士の 芝 播州姫路
急の口くぬ 秋をゆく 自れも心 遊江

山よりありとも ねハ 一ちあら 播磨姫路 連中

物 枯るも 需るも 愛と 育るも 如摩もくしき山ハ 磐石 石州河本 志程

人 形ありありハ 人の 泣きや 山ハさハハ 海とそくく 石州中山 磐石

ま け 色 女 相 應 する 付 赤 心 旗 いつも汗かく河猪のふ 勢州津 李橋

老 功 と 多 経 下 角 力 取 そふへきハ 弓乃 生 日 石州市山 飲露

う つ 心 然 づ け 秋 之 を 案 出 程 蛭 子 子 石州河本 志程

狭 砲 と 位 牌 を 松 々 座 せ たり 程 蛭 子 子 石州河本 志程

八事の敵も入ん ちの ち 石州河本 志程

右十三章 葵ニ放免附物加印

あ ぶ だ だ ち や き 突 や ら 山 ち ち 京 雪人

抱 付 け ち お ち び の 露 ち ち ち 伊豫守和重 白

つ ち ち ち ち 人 ち ち ち ち ち 肥前佐奈 道中

稲 妻 ち 威 威 奪 ち ち ち 月 の 影 播州姫路 仙丈

降 煙 ち ち 景 の 出 ち 良 伊奈氏 仙丈

日くつりみうつしてなる 種のはね 京 八馬

田舎めいりて 跡 耳 塚 石洲三原 楚状

活陽の雲ある山 難波の津 日屋市山 文声

看板小書と自慢と目子三氏

右七章 葵申日雨印

扇乃出く 汗をうく 贅女 揚州姫路 龜齡

三本指もみ 川持 揚州姫路 柳石

右兩章 使車之印

發句之分

湯子巻くは花折ともま 清水の古 石州大家 始吟

入あのみさも早も 手向水 佐州藤田 不省

やうし起しの海き杜野山 淡河杉生所 連中

見物と杉と紐と何と云お撲 淡州小振並 連中

石作や吸く扇乃物如く 伊豫内之子 連中

書五章 酉日之印

彫刻 下立賣大宮西入所 竹屋 金治

全 竹屋町西洞院西入所 九屋和右衛門

書林 二條富小路西入所 野田 藤八



獅子と云とある

石佛也か

ある馬の春とある

